

カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究の取組

－ 「本気」「話し合い」「創造」をキーワードに －

新城市立八名中学校 教諭 原 正樹

1 はじめに

八名中学校は、新城市の南部、静岡県との県境に位置し、校区には国の重要文化財の望月家住宅、宇利城址、夜泣き石古墳群などの歴史的遺産が多く残っている。また、吉祥山や大原調整池周辺の生態系をはじめ、豊かな自然に囲まれ、天王祭や庭野歌舞伎等、昔からの文化が引き継がれており、学習資源に恵まれている。本校に通う生徒は、三世代で暮らしている生徒が多く、安定した生活を送っている。地域は学校教育に理解があり、教育活動に対してとても協力的である。そんな環境の中で育った生徒は落ち着いた学校生活を送り、授業や部活動、行事にも真面目に取り組むことができる。その反面、受け身の行動が目立ち、自分で課題を見つけ、解決していく姿があまり見受けられない。

平成 28・29 年度、新城市教育委員会から「体・知・徳」の教育活動推進事業による研究委嘱を受け、「郷土学習」に関わる研究発表を行った。主題を「郷土に愛着をもち、思いを表現する生徒の育成」と定め、郷土を見つめ直し、将来にわたり、魅力的で住みやすい町にするために、追究を深めてきた。

平成 30 年度には、愛知県総合教育センターより「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究」の研究協力校に委嘱された。カリキュラム・マネジメントに関する本校教職員の当初の認識は、各教科の学習内容を関連させるために、年間の学習内容を見直していくものであるといった程度であった。しかし、研究を進めていくと、カリキュラム・マネジメントとは教育目標の達成を目指して、教科や行事等、全ての学校教育活動をつなぎ、共通して本校の生徒に必要なとされる資質・能力を高められるように指導することが基本的な考えであることを理解することができた。そこで、本校では教育目標の実現に向けて、カリキュラム・マネジメントの視点でこれまでの教育活動を見直していくこと、同時に「郷土学習」の研究で培った生徒の表現力を更に伸ばすことを目的とし、研究に取り組むことにした。

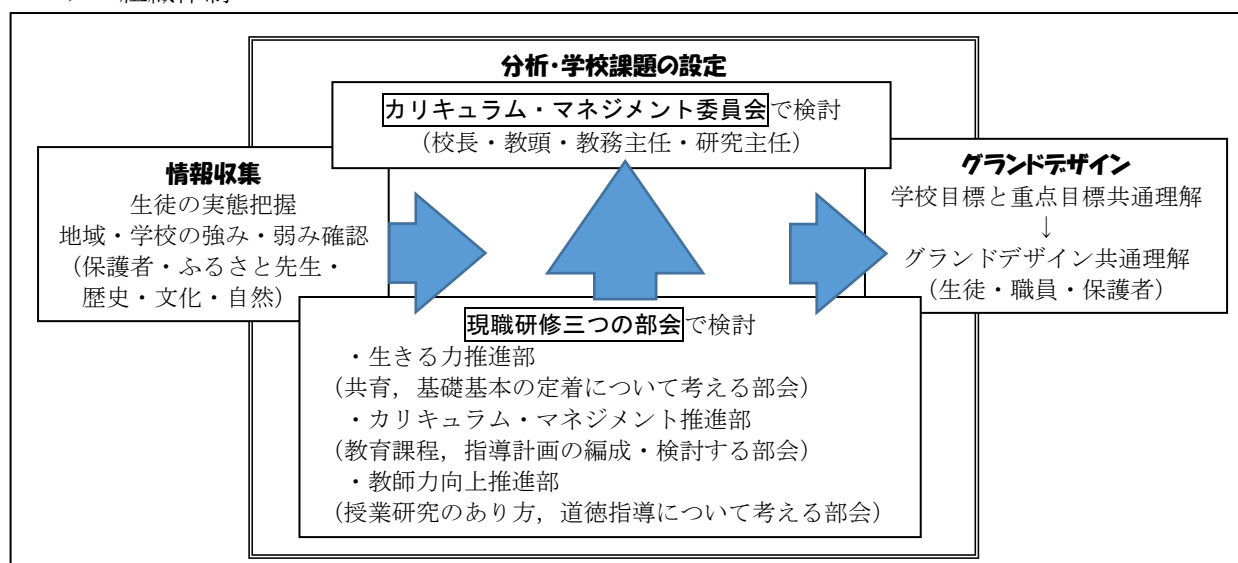
2 研究の経過

(1) カリキュラム・マネジメントについて理解し、教育目標（目指す子どもの姿）の共通理解を図る（グランドデザインの作成）

- ① 学校の教育目標の実現に向けた現状の把握
 - ア 生徒についての現状分析（現状把握シート）
 - イ 学校の内部・外部環境の分析（SWOT分析シート）
 - ウ 学校の現状と課題の把握（カリキュラム・マネジメント検討用シート）
- ② 学校の特色づくりに向けた取組
 - ・学校の現状・課題・将来像に基づいた学校経営の共有化（カリキュラム・マネジメント分析シート）

③ グランドデザインの作成

ア 組織体制



イ 学校経営や教育実践の有効性や優先順位の明確化

(カリキュラム・マネジメント実行策対策シート)

(2) 育成を目指す資質・能力と関連付けた授業改善

① 各教科等で育成を目指す資質・能力の検討

(資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントシート)

(各教科でのカリキュラム・マネジメントシート)

② 育成を目指す資質・能力との関連を意識した授業実践

(3) 学校の教育目標の実現に向けた取組

	月	取 組	掲載ページ
研究一年目	6月	カリキュラム・マネジメントの在り方の研修, 教育目標の分析	
	7月	検討用シート・現状把握シートの研修	p. 4
	9月	内・外部把握SWOT分析シートの研修	p. 4
	10月	実行対策シートの研修, 分析シートの検討	p. 7
	12月	グランドデザインを検討 各教科のカリキュラム・マネジメントの研修・検討	p. 7 p. 13
	3月	各教科の年間計画作成 (他教科とのつながりの記載)	p. 12
研究二年目	4月	教職員検討用シートの調査 生徒アンケート調査 学校目標の共通理解 (生徒集会) グランドデザイン・各教科のカリキュラム・マネジメントを再検討 グランドデザインの保護者への説明 (PTA総会) 八名中学校の教育課題の共有化	p. 4, 6 p. 19 p. 9 p. 13 p. 8
	5月	各教科のカリキュラム・マネジメントの焦点化検討	p. 13
	6月	カリキュラム・マネジメント校内授業研究 ・3年 理科 ・2年 英語・国語	p. 15, 16
	7月	1学期の取組の振り返り (レポート作成・提出)	p. 18
	8月	カリキュラム・マネジメント指導案修正検討 カリキュラム・マネジメント授業事前検討	p. 18, 19
	9月	教職員検討用シートの調査, 生徒アンケート調査 カリキュラム・マネジメント公開授業研究 ・公開授業 ・指定授業 1年 音楽	
10月	カリキュラム・マネジメント校内授業研究 ・3年 英語 ・2年 数学・社会	p. 19, 20	

(4) 評価・改善について

- ① 学校の教育活動全体を通じた取組の評価
- ② 「教育目標（目指す子どもの姿）に近づいているかどうか」の評価

3 研究の目的

(1) 目指す生徒像

本校の教育目標である「感動・創造・貢献の喜びを共に」を実現するために、身に付けさせたい力を教職員で検討し、以下のような生徒像を目指していくことにした。

- ・授業や行事，さまざまな教育活動において，本気になって取り組むことができる生徒
- ・課題について自分事として捉え，積極的に話し合うことができる生徒
- ・既習内容，経験を生かし，新しいものを創り出すことができる生徒

(2) 研究の仮説と手だて

目指す生徒像に近づけられるように、以下のような仮説を設定した。

生徒と教職員が学校の教育目標を共有し、生徒が主体的に活動できる場を創出することで、本気になって課題に向かい、課題解決のために議論し、新たな考えをつくり出すことができるであろう。

教職員が意思統一し、教育目標の達成を目指した教育課程を編成するための手だてとして、各種カリキュラム・マネジメントシートを利用していく。このシートを使うことで、本校の現状を洗い出し、教育活動全体を分析し、見直しを進めていく。そして、その実践の評価を適切に行っていくように考えた。

さらに、本校でカリキュラム・マネジメントを進めるに当たって、カリキュラム・マネジメント委員会と三つの部会を組織することにした。カリキュラム・マネジメント委員会とは、校長、教頭、教務主任、研究主任で構成し、三つの部会を経験年数、担当学年等が異なるグループで組織する。三つの部会は学校の教育活動について話し合ったり、行事計画を立てたりする基本の集団とした。小グループで話し合うことで、一人一人の教職員が各種の教育活動について自分事として捉え、よりよい学校にしていこうとする意識を高めることがねらいである。

4 研究の内容と実践

(1) 教育目標（目指す子どもの姿）の共通理解を図るための校内研修

① 学校の教育目標の実現に向けた現状の把握

ア 生徒についての現状分析（現状把握シート）

現職研修の時間に現状把握シートを利用して、本校の生徒の実態、強みと弱みについて洗い出した。生徒の現状を基に、学校目標「感動・創造・貢献の喜びを共に」の達成に向けて、生徒に「どんな力を身に付けなければならないのか」「重点目標はどうすればよいのか」等、意見交換を行った。

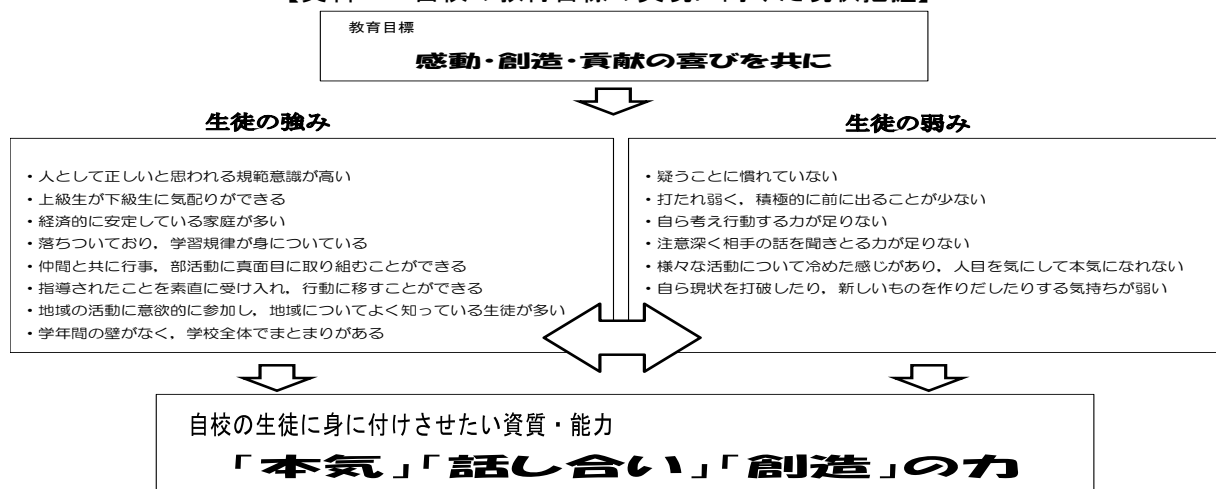
「感動」という視点については「何事にも真面目に取り組んでいるが、本気かどうかと考えると少し厳しいので、感動は生まれていない」「行事や部活動等で、あまり生徒の流す悔し涙やうれし涙を見られない」「朝のスピーチはやらされている感が強く、意欲的で感動を生む活動になっていない」「意見交換で終わっている」等の意見が出された。

「創造」という視点については、「生徒が自分の意思で新しいものをつくり出す場面が設定されていないのではないか」「教師主導な場面が多い」という教師側の反省が聴けた。

「貢献」という視点では、「友達と力を合わせることで、地域の行事に参加したり、地域のために動いたりすることは、前年度までの総合的な学習の時間の取組が生かされ、貢献ができるようになってきている」「自然な姿で人のために、地域のためにという動きができていく」という意見が出された。

この話し合いを基に、カリキュラム・マネジメント委員会で重点目標について検討し、以下のように、資質・能力の育成を目指すことに決定した（資料1）。

【資料1 自校の教育目標の実現に向けた現状把握】



イ 学校の内部外部環境の分析（SWOT分析シート）

重点目標の達成のために、学校の内外環境についてSWOT分析を行い、本校の環境について整理した。部会に分かれて学校の内部環境の強みと弱みを明らかにするとともに、外部環境の支援的要因と阻害的要因に分類し、特色ある学校教育活動はどんなものがあるのか、学校目標を達成するための手だては何なのか検討した（添付資料1）。

外部環境では、保護者や地域の方々を学校の教育活動に巻き込み、教育資源を利用しながら上手に学校運営をしていくことが大切であることが分かった。また、内部環境では少ない教職員でも活動を工夫し、素直に物事を捉えられる長所のある生徒の力を伸ばしていけるように努力していこうと考えた。

ウ 学校の現状と課題の把握（カリキュラム・マネジメント検討用シート）

研究1年目、全教職員14名を対象にカリキュラム・マネジメント検討用シートに取り組んだ。添付資料2は検討用シートの一部の項目をリストアップしたものである。その結果、教育目標の理解については、全教職員がある程度できていることが分かった。カリキュラムのPDCAサイクルの実践については、教職員に浸透していないことが明らかになった。リーダーシップに関しては、「リーダーシップを発揮しているかどうかと考えると厳しい感じがする」という意見が出ていた。学校をよりよくするために、教職員を引っ張る力にもの足りなさを感じられる結果となった。学校目標達成のために、カリキュラムを見直し、改善していくことと、リーダーを育成することが、本校の課題であるとカリキュラム・マネジメント検討用シートの集計から考察した。

② 学校の特色づくりに向けた取組

- ・学校の現状・課題・将来像に基づいた学校経営の共有化

今までのカリキュラム・マネジメントシートのまとめを基に分析シートの作成を行った。研究主任がデータの分析を行い、カリキュラム・マネジメント委員会でカリキュラム・マネジメント分析シートの検討を行った（添付資料3）。

カリキュラム・マネジメント分析シートからは、教育活動の根幹である教育目標の共通理解が十分でないため、授業や行事等での生徒の資質・能力の育成につながっていないのではないかと考察した。

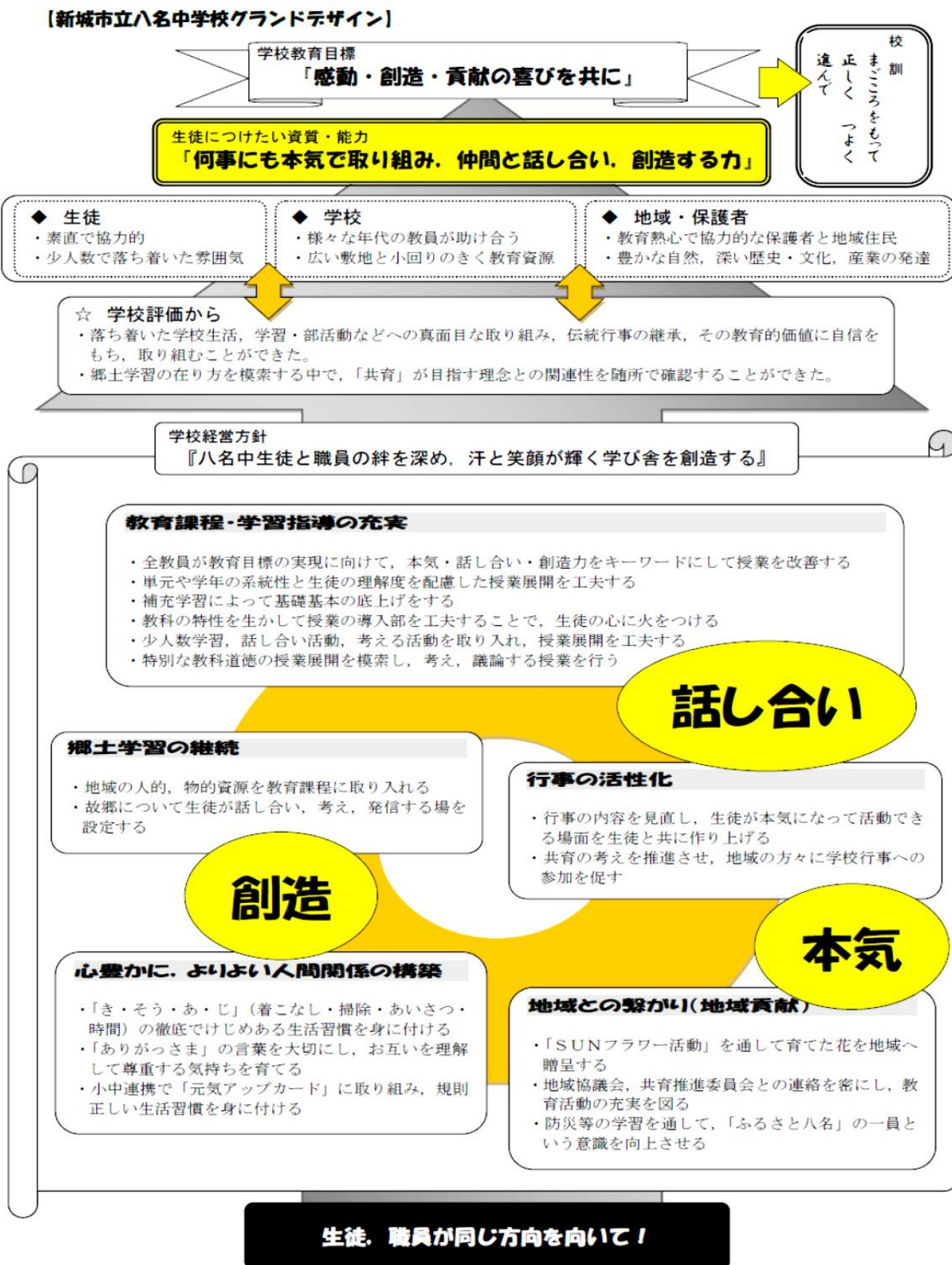
③ グランドデザインの作成

ア 組織体制

分析シートの結果から、本校の教育活動において全教職員の意思統一、共通理解を図ることが大切で

あることが分かった。そこで、研究主任を中心にグランドデザインを作成し、より効果的に生徒の目指す資質・能力を高めようと考えた。特有な活動や内部環境、外部環境のプラスに働く因子、重点目標をまとめ、一目で本校がどんな学校なのか分かるように表現した。グランドデザインは、カリキュラム・マネジメント委員会で提案、検討を行い、形を練り上げていった。できる限り、文章量を少なくし、簡潔に学校の教育活動を表現することを意識して作成し、最終段階で全教職員に配付して意見を取り入れ、グランドデザインとした（資料2）。

【資料2 新城市立八名中学校グランドデザイン】



イ 学校経営や教育実践の有効性や優先順位の明確化

(カリキュラム・マネジメント実行策対策シート)

カリキュラム・マネジメント検討シート、カリキュラム・マネジメント分析シート、グランドデザインの取組で、学校の教育活動において指導の改善点が浮き彫りになった。以下は、本校の教育活動について、本校教職員が挙げた評価できる点と改善点である(資料3)。

【資料3 カリキュラム・マネジメント検討用シート備考欄】

検討用シート項目		評価・改善ポイント ○評価できる点 ▲改善点
ア	教育目標	①○生徒の実態把握 OK ②○職員室では気軽に相談できる雰囲気はある ③▲学校目標の具体的な捉えが十分でない教職員が多い ④▲学校目標に具体性はあるが、生徒にどんな力を付けたいのか分かりにくい ⑤▲目の前の生徒に合っている目標なのか疑問がある ⑥▲学校全体は把握できていない
イ	P D C A P (計画)	⑦○指導計画はしっかりとしている ⑧▲評価に共通認識なく、各教員にまかされている ⑨▲学校目標が学級経営案、学習指導に連携しているとは言えない ⑩▲年間指導計画が細かすぎ、全体計画をつくりにくい ⑪▲地域に関するもの以外は連携されていない
	P D C A D (実施)	⑫○系統性を考えて授業内容を組み替えて実践している単元もある ⑬○学年目標は意識して行事計画はされている ⑭▲目先の活動に追われ、学校目標を意識した授業や行事運営ができていない ⑮▲教科間の関連性を検討する場を設ける必要がある ⑯▲系統性の考え方が甘い(自分の科目のみ考えるが…)
	P D C A C (評価)	⑰○授業ではさまざまな評価をしている ⑱○週案簿で反省、振り返りをしている ⑲○授業の振り返りから授業の評価をしている ⑳▲授業の評価は時間に追われ、具体的にできていない ㉑▲研究授業では授業の評価のみ行うが、そこから展開はない (全教職員の指導力向上にはつながっていない) ㉒▲さまざまな事例について振り返り、次の活動に生かす、この過程が弱い
	P D C A A (改善)	㉓○授業進度は、昨年の反省を生かして、取り組むことができています ㉔○研究授業での取組を次につなげられるように考えている ㉕▲個々の分析で止まっており、全体の共通理解が弱い ㉖▲反省を次に生かそうと話し合う時間が作られていない
ウ	組織構造	⑳○SC, ALT とよく話ができて、相談をしやすい雰囲気がある ㉗▲時間確保の配慮があったとしても、それ以上に多忙である ㉘▲人手不足で苦しい ㉙▲現職教育等の時間を使い、個人で研究を進める時間を確保してほしい ㉚▲全教職員で教育課程について話す機会がない
エ	組織文化	㉛○地域のつながりを意識して、行事に力を入れている ㉜○職員室で生徒の話題が多く上がる ㉝▲全教職員を通し、互いに刺激し合い成長するという感覚がない ㉞▲組織的と言われると厳しい ㉟▲知識・技能を共有する時間がない ㊱▲姿勢・意識はあるものの実際に行動に移せていない感じがある
オ	リーダーシップ	㊲○指示が分かりやすく、仕事をしやすい環境がある ㊳▲忙しいという言葉で諦めてしまうことは多い ㊴▲リーダーシップと言われると、厳しい感じがする ㊵▲カリキュラムについて研究推進、具体策などの考えはない ㊶▲活動が担当任せになっている感じがする
カ	家庭 地域社会等	㊷○地域・家庭が生徒に近い ㊸○家庭の協力体制が◎ ㊹○地域学習を積極的に行っている ㊺▲学校主導で地域、家庭とともに考える機会は設定されていない ㊻▲利用できる施設が学校の近くにはない
キ	教育行政	㊼○学校訪問では、指導員や指導主事の指導を受けている ㊽▲時間をつくり出せずにいる ㊾▲多忙により研修は二の次になっている

この①～⑤⑩のポイントについて全教職員でカリキュラム・マネジメント実行策検討シートに記入し、部会で話し合いながら教育課程において改善する取組の優先順位を検討した。その項目の改善を容易だと感じるのか、困難だと感じるのかは、教職員によって個人差があった。三つの部会のデータを集計し

【資料4 カリキュラム・マネジメント実行策対策シート】

効果	容易 ←				→ 困難	
大	1個	エ32内外	ア 2内	25内	ア 1内	エ36内
	2内	33内	3内	26内	イ11内	オ39内
	3個	37内	4内	ウ30内	14内	40内
	イ 8内	オ38内	5内	エ34内	16内	41内
	7個	42内	6内	イ 35内	21内	42内
	18個	カ43外	イ 8内	36内	22内	45外
	19個	44外	9内	オ39内	ウ28個外	46外
	24個	45内外	17個	40個	29個外	キ48内
	23個	46外	20個	41個外	30内	49内
	ウ27内	キ50外	22個	カ46外	31内	50外
			21内	47外		
			イ10内	エ32内	イ 8外	エ36内
	ア 2内	ウ27外	20個	34内	10外	オ39内
	イ 7内	エ32外	22内	37個	14個	41内
	12個	オ38内	23個	オ40個	15内	カ46外
	13個	カ43外	24内	41内	16個	47外
	17個	44外	25内	42内	25内	キ48内
	18個	45外	26内	カ45内	ウ28外	49内
	23個	キ50外	ウ31内	キ48内	29内外	
	24個			49内	30内	
			50内	31内		
小						
	エ33内		イ11内	オ42内		
	キ50外		25内	カ47外		
			エ35内			
			キ48内			
			49内			

効果が大大きく 容易な取組

1～50は検討用シートの備考項目の番号

内 教職員レベルで実施可能 内 内学校ぐるみで実施可能 外 外学校外の関係者の協力を得て取組可能

たものが、以下のカリキュラム・マネジメント実行策対策シート（片仮名は検討用シート項目、数字は前頁の評価・改善ポイントの番号）である（資料4）。

エ 学校経営や教育実践の改善点の検討

カリキュラム・マネジメント委員会で、カリキュラム・マネジメント実行策検討シートの分析をし、改善項目の中で「効果が大大きく」「容易な取組」「教職員レベルで実施できる」等の比較的日頃の意識改革次第で効果が出そうなポイントを選定した。

- ⑥▲学校全体で教育目標を把握できていない
- ⑨▲学校目標が学級経営案、学習指導に連携しているとは言えない
- ⑩▲年間指導計画が細かすぎ、全体計画を作りにくい
- ⑪▲研究授業では授業の評価のみ行うが、そこから展開はない（全教職員の指導力向上にはつながっていない）
- ⑫▲さまざまな事例について振り返り、次の活動に生かす、この過程が弱い
- ⑬▲組織的に生徒を育てているかと言われると厳しい
- ⑭▲リーダーシップと言われると、厳しい感じがする
- ⑮▲活動が担当任せになっている感じがする

以上の項目について、改善していくための具体的な手だてを考え、取り組んでいくことを全教職員で共通理解を図った。

(7) 教育目標の項目

- ・本校の特色ある教育活動がまとめられたグランドデザインを全教室に掲示し、常に目に触れるようにするとともに、校長から学校経営について生徒に伝える。

(イ) PDCAの項目

- ・指導案の検討→研究授業→事後検討までを部会単位で行う。これによって、一人で行う授業研究から学校（部会）で行う授業研究、教職員で協力してつくる授業研究に近づいていくと考えた。事後検討

では、授業者への提案の形で意見を伝えるようにし、部会で振り返りをする中で、自分の授業に生かされるようなシステムとした。

- ・カリキュラム・マネジメントの視点を意識するために指導案の形を工夫するとともに、授業内で重点目標に関連した活動を取り入れられるような授業展開を考える。具体的には、三つの柱（学びに向かう人間性、思考・判断・表現力、知識・技能）と自校の重点目標（本気、話し合う力、創造力）を、学習内容に合わせて指導案に示す。さらに、本時の展開の中にも、自校の重点目標達成に向けた活動内容を加える。
- ・教科等横断的な考えの下、単元全体、教科全体、他教科の内容等との関連を系統的に捉え、年間指導計画に明確に記す。
- ・教職員、生徒アンケートを定期的実施することで、生徒の変容を明らかにし、カリキュラム・マネジメントの効果を検証して、次の活動の改善に生かす。

(ウ) 組織・リーダーシップ

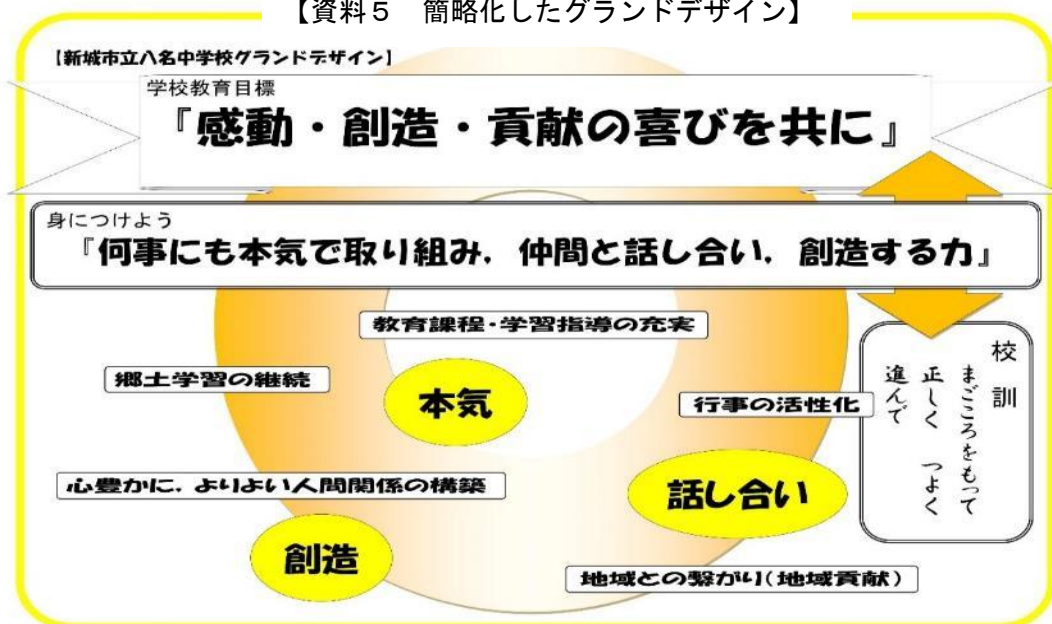
- ・現職研修の三つの部会を基本にし、その上にカリキュラム・マネジメント委員会を組織する。小グループで話し合うことで、一人一人の教職員が各種の教育活動について自分事として捉えられる。部会の考えは、カリキュラム・マネジメント委員会で集約し、検討され、指導を行っていく。
- ・教職員にやらされている感をなくすために、研究主任が先頭に立って授業研究や各種活動などに取り組み、職員をリードする。

(2) 育成を目指す資質・能力の視点からの学校の教育活動全体を通じた取組

① グランドデザインを生徒、保護者に

カリキュラム・マネジメント委員会では、グランドデザインは職員、生徒、保護者が共有し、本校をよくしていくために考える基盤だという意見があった。生徒、保護者も巻き込み、学校の活動を理解してもらい、重点目標達成に向けた活動を行っていきいたいという考えから、グランドデザインを全教室に掲示して意識を高めたり、PTA総会の折に保護者に配付したりした。グランドデザインは簡略化し、生徒・保護者用として掲示、配付した（資料5）。

【資料5 簡略化したグランドデザイン】



② 教育目標をベースにした級訓づくり

どのクラスでも年度始めに級訓を決め、1年間の目標として教室に掲げる。今までの本校では、生

徒に投げかけ、「どんなクラスを目指すのか」「級訓として、どんな言葉がふさわしいのか」等、考えてきた。級訓の言葉を先に決め、後付けで「どんなクラスにしたいのか」と考えることも珍しくなかった。そこで、生徒に教育目標を意識させ、全員で八名中をつくっていきたいという思いで、級訓を考えていけるような活動を計画した。



【写真1 校長の学校目標についての講話】

研究2年目の4月初め、校長が学校の経営方針や教育目標について、全校集会で生徒目線に立った講話をし、教育目標「感動・創造・貢献の喜びを共に」について、校長の思い、生徒に望むこと等の話をされた。「昨年の教育目標を知っているか」と尋ねても、ほとんどの生徒が意識していないため記憶に残っていない状況であったが、生徒は真剣な眼差しで集中して講話を聴いている様子だった。この講話から、「1年間、がんばるべきこと」が伝わり、それは、学級活動の級訓に反映された。全校6学級（特別支援学級の除く）で、この講話の後に級訓づくりを行い、各クラスの生徒が、明らかに教育目標を意識して、更に自分たちの学級の現状から級訓を決めるために話し合っている様子があった。以下が、決定した級訓の例である。学校目標を意識して級訓づくりをしたことで、この1年間、いつも「感動・創造・貢献を共に」という目標を掲げ、授業や行事、特別活動等に取り組んでいきたいという、生徒の思いがこもった級訓となった（資料6）。

【資料6 級訓の例】

1年A組 「パズル～18ピースの仲間～」

クラスの仲間一人一人の個性が一つのピースとして、クラス全員で一つのパズルを作り上げるように、達成感や成就感などの感動をピースとして積み上げ、1年間で最高のパズルに仕上げられるように努力していきたいという意味である。また、クラスのパズルを作り上げ、仲間と助け合い、支え合うことで、さまざまなものを創造する力、学校や地域のために活動する力に「チェンジ」していくと考えて目標を設定した。今年は八名中1年目、中学校生活に慣れ、仲間と協力して感動できる活動につなげるとともに、心を成長させ、高め、何事にも本気で取り組むことができるようにしたいという思いが級訓に込められている。クラス全員で力を合わせ、パズルの精神で学校生活を送り、どのクラスにも負けないチームワークのクラスを目指す。

3年A組 「I n f i n i t y l o o p」

「一つ一つのことに對して全力で取り組もう！」3年生にとって、全ての行事が最後となる。悔いの残らないように、また、達成感を得るためには、結果はどうあれ全力で取り組むことが必要になってくる。全力で取り組むことによって感動が生まれ、その感動が創造を生み、そして周りへの貢献となっていく。こうしたことを繰り返し経験することは、将来に向けてとても大切なこととなる。3年生は、常に入試のことがついてまわるが、だからこそ、そのときにはそのことに對して全力で取り組んでいきたい。また、2年生のときよりも、一皮むけ、成長をしていきたいという思いが詰まった級訓である。生徒一人一人のよさ・個性を認めつつ、活躍できる場所をつくり、そのよさを全体で認められるようなクラスにしていきたい。

③ 話し合い活動の工夫

本校は、教育目標の達成に向けて、必要な資質能力である「話し合い」の充実を重点目標にしている。

本校では、今まで朝の活動でスピーチが行われてきた。当番の一人がテーマにそった内容や話したい内容を発表し、クラスの仲間が質問する。研究2年目より、生徒が話し合いの仕方を学ぶ機会とし、



【写真2 お題についてグループで話し合う】

グループワークを取り入れ、話し合いに慣れること、話し合いのスキルの向上に努めた。その体験が教科の授業にも生かせるようにしていくために、「生きる力推進部」を中心に話し合い活動について考え、提案した。

ア 朝の話し合い活動

(ア) 手だてとしての話し合い活動

中学校は教科担当であるため、他教科でどんな話し合い活動が行われているのか分からない。答えを求めるために話し合い活動を必要とする教科や、お互いの考えを共有するために行う教科等がある。各教科が話し合い活動をどのように捉えているのか表にまとめ（資料7）、全教職員で教科間の話し合いの違いについて共通理解を図ることにした。

【資料7 各教科の話し合いの目的】

目的	該当教科	具体的な使用例
A 課題解決のために行う話し合い	数学, 体育, 国語, 社会, 理科, 技家	・問題の答えを求める(数学) ・チームスポーツで勝つために、チームのメンバーと作戦を考える(体育)
B 多様な意見を知るための話し合い	国語, 社会, 保健, 音楽, 美術, 理科, 道徳	・歴史の出来事が発生した理由を考える(社会) ・主人公の気持ちについて考える(国語)
C 話し合い活動を手だてと考えない	英語	

(イ) 目指すレベル

- 1年：自分の考えや思いを説明することができる。また、仲間の発言に対して、質問をすることができる。
- 2年：自分の考えや思いを聞く人の様子を見て、説明することができる。また、仲間の意見を踏まえて、質問することができる。
- 3年：仲間の話を受けて、自分の考えや意見を説明することができる。また、仲間の意見を踏まえて、考えを広げたり、深めたりする質問や思いを発表することができる。

(ウ) 注意事項

- ・全員が司会を経験する。司会が、話し合いの集団の意見をまとめる。
- ・テーマは、各学年統一する。
- ・話型は特に設定しない。中学生ならば話型がない方が話し合いを行いやすい。しかし、個別対応の中で話型が必要な生徒がいれば、個々に設定する。

イ 授業での話し合い活動

朝のスピーチのグループワークを生かし、数学科3年生「二次方程式とその解き方」の授業では、説明力アップを目指した話し合いが行われた。グループで話し合い活動を取り入れると、実力がある生徒から説明を始め、下位の生徒が聞くだけになってしまうことが多く、お互いに高め合う場面になりにくいことがよくある。そこで、次のような話し合いの形を取り入れた「展開・因数分解」の授業を行った。はじめに、教科書の問題の解き方について、説明することができるかどうか、「◎…説明に自信がある、○…何とか説明ができる、△…説明する自信がない」のいずれかをノートに書かせる。その後、3・4人のグループを作り、問題の解き方について説明をし合う。△→○→◎の順番に説明を行い、解き方を学び、練習問題に入るような流れである。その結果、下位の生徒の困り感を上位の生徒が把握し、ポイントを絞って分かりやすい説明をする姿が見られた。そして、グループ内での理解の深まりが顕著になった。下の資料は、授業展開の例である（資料8）。

【資料8 話し合い活動を取り入れた授業の工夫】

①新しい展開の問題を提示する

例2 (1) $3x^2 - 24 = 0$ (2) $4x^2 - 3 = 0$
 $3x^2 = 24$ $4x^2 = 3$
 $x^2 = 8$ $x^2 = 3/4$

☆教科書の例を見て、説明できるかどうか記号(△・○・◎)をノートに書きましょう。
 ☆では、グループになって、説明をしましょう。

②課題について話し合う



私は◎をつけました。さっき彼が言ったように、分数でも答え方は同じだよ。

自分は○につけたよ。
 $x^2 = 3/4$ の続きは分数でも平方根の考えが使えると思うよ。

△をつけました。
 (2)の $x^2 = 3/4$ まで説明できるんだけど…。

②問3の問題を解いてみる



(1)はさっきみんなにうまく説明できたので、うまく解くことができましたよ。

(3)の問題がうまくできないんだけど…。教えて!

問3 (1) $2x^2 - 36 = 0$
 (2) $5x^2 - 60 = 0$
 (3) $9x^2 - 2 = 0$

途中まで式はあっているよ。ほら、教科書の答えも同じように解いているよ。ここからは、例2の(3)のようにやってみよう!



$9x^2 - 2 = 0$
 $9x^2 = 2$
 $x^2 = 2/9$
 ここから何だけど…。

生徒の感想

- 自分が△をつけたときに、先に自分は説明することで自分はどこが分かっている、どこが分かっているのかが説明しているうちに分かって、その分かっていることを意識しながら分かる人の説明を聞いたのでよかったと思います。
- 同じ○の子でも一人一人説明が違って理解しやすかったです。苦手な子にとってどこが分からないのかも知ることができるし、逆に◎の子の説明で更に分かるようになるので、よい機会だと思いました。

(3) 育成を目指す資質・能力と関連付けた授業改善に向けた具体的な取組

① 教科等横断的に実践を目指した年間計画

研究1年目の反省で、他教科の活動や学習内容を知ること、他教科で関連のある内容を扱っている単元について教材研究をしたり、重点目標の「本気・話し合い・創造」の活動を教科等横断的につなげたりしていく必要があるという意見が出された。

そこで「カリキュラム・マネジメント推進部」で年間指導計画を検討し、指導計画の形式を見直し、利用しやすいものを作成することにした。昨年度までは1教科1学年で細かな計画が立てられており、何枚もの年間指導計画となっていた。教科担当には必要であるが、内容が細かすぎるため、専門外の教師にとっては他教科がどんな取組をしているのか分かりづらいものとなっていた。そこで、簡潔に1学年1教科A4用紙1枚に計画をまとめることにした。また、教科間で相談し、教科等横断的につなげられる単元をリストアップし、年間指導計画に記載することにした(資料9)。研究2年目については、学

習の順序を変えて、他教科で関連のある内容を扱っている単元を同じ時期に指導するという事は行っていないが、カリキュラム・マネジメントの考えの下、授業で教育目標に迫るために、教師が担当教科以外の学習内容を知り、それを生かして指導していくことは大切であると考えた。また、全ての教科の学習内容が一目で分かるように、視覚カリキュラムの作成も行った（資料10）。

【資料9 年間指導計画例の一部】

第3学年 理科 年間指導計画

月	時	単元(題材) 学習内容	目 標	郷土・他教科との関連
4	12	●天体観測を続けてみよう	・天体やその動きについて継続的に観測し、結果をまとめる。	数1年10月:比例 数1年11月:平面図形 数2年12月:図形の性質と証明 数3年9月:三平方の定理 数3年10月:関数 数3年2月:標本調査 技2年4月:1さまざまなエネルギー 技2年5月:2電気エネルギーの利用 技2年6月:3電気機器の保守点検 技2年2月:5私たちの生活とエネルギー変換 体1年9月:跳躍種目 体2年9月:跳躍種目 体3年9月:跳躍種目
		◆運動とエネルギー 1. 力のはたらき ①力のはたらき ②力の合成 ③力の分解 2. 物体の運動 ①運動と速さと向き ②力がはたらき続ける運動 ③力がはたらいていない運動 ④力をおよぼし合う運動 3. 仕事とエネルギー ①仕事 ②エネルギー ③力学的エネルギーの保存 ④エネルギーとその移り変わり ⑤エネルギーの保存と利用の効率 ⑥熱エネルギーの効率的な利用	・物体の運動やエネルギーに関する観察、実験を通して、物体の運動の規則性やエネルギーの基礎について理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて運動とエネルギーの初歩的な見方や考え方を養う。	
5	12			
6	16			

他教科とのつながり

【資料10 視覚カリキュラム 2年生の例】

2年	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
国語	広がる学びへ		多様な視点から	言葉と向き合う	読書生活	関わりの中で	いにしへの心を訪ねる	論理を捉えて	読書に親しむ	表現を見つめて	
社会	地理 世界からみた日本の姿	歴史 近世の日本		地理 世界の諸地域				身近な地域の調査	近代の日本と世界		
数学	式の計算		連立方程式		一次関数			図形の調べ方	図形の性質と証明	確率	
理科	化学変化と原子・分子(物質のなりたちと化学変化)			動物の生活と生物の進化(動物のからだと分類・進化)				電気とその利用(電流の性質と磁界)		気象のしくみと天気の変化(天気の変化と日本の気候)	
英語	Unit0.1 過去形	Unit2 未来の表現		Unit3 不定詞	Let's Read1 Unit4 助動詞		Unit5 接続詞	Unit6 There is 構文 動名詞	Let's Read2. Unit7 比較表現		Let's Read3 まとめ
音楽	表現 夢の世界を等アルトリコーダー		鑑賞 「フーガ」短調	表現・創作 心の歌等	鑑賞 「交響曲第5番」ハ短調	表現 合唱コンクールに向けて 心の中にきらめいて等		表現 アルトリコーダー	鑑賞 「アイダ」から	表現 卒業式に向けての合唱	鑑賞 「勳進帳」から 日本の郷土芸能
保健体育	体づくり 理論	陸上競技 ハードル	ネット型	水泳 保健	体づくり	陸上競技 跳躍	器械運動 マット	ゴール型 保健	陸上競技 長距離	ベースボール型 保健	剣道 ダンス
美術	絵・彫刻 しぐさで語る動物たち		デザイン・工芸 情報をわかりやすく伝えよう		鑑賞	絵・彫刻 新鮮な視点でとらえよう	デザイン・工芸 魅力が伝わるパッケージ		鑑賞	絵・彫刻 墨が生み出す豊かな世界	
技術	エネルギー変換 さまざまなエネルギー、電気、保守点検			情報 好きなものを紹介しよう(プレゼンテーション)			エネルギー変換 生活に役立つ電子機器を作ろう			生物育成・情報 夏野菜を育てよう	
家庭科	わたしたちの消費生活	環境に配慮した消費生活	衣生活と自立		住生活と自立①		生活を豊かにするために		生活の課題と実践	住生活と自立②	
総合	ガイダンス	自然教室についての活動		職場体験・ふるさと学習についての活動			職業・高校調べ		修学旅行に向けて		

② 各教科等で育成できる資質・能力の検討に活用した手法

(資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントシート)

全ての教育活動で「本気」「話し合い」「創造」の資質能力が高められることがカリキュラム・マネジメントにつながると考え、重点目標項目に沿った目指す生徒の姿を具体的に示すことにした(資料11)。

【資料11 八名中学校 教科のカリキュラム・マネジメント例一部】

☆生徒に身に付けさせたい能力 『何事にも本気で取り組み、仲間と話し合い、創造する力』			
	本気	話し合い	創造
理科	・実験・観察に対して目的意識をもって取り組み、意欲的に探究することができる。	・実験・観察の方法、結果の予想、考察等をグループで話し合い、仲間の考えに耳を傾け、理解を深め、技能を身に付けることができる。	・実験・観察の結果を考察し、規則性を見出したり、課題を解決したりし、その知識を身近な現象と関連付けて考えることができる。
道徳	・さまざまな道徳的価値に基づいた内容について、状況を理解し、自分なりの考えをもつことができる。	・自分の考えに根拠をもって伝えるとともに、さまざまな立場の人の考えと交流し、判断や立場の違いを理解することができる。	・題材中の登場人物の思い、クラスの仲間や教師などの意見を聞くことを通して、多面的・多角的な考えにふれ、道徳的判断力を高めることができる。
保健	・個人生活における健康課題を見つけ、その合理的な解決に向けて意欲的に思考し、判断しようとするすることができる。	・自他の健康課題とその解決について、仲間と意見交換をすることで理解を深めることができる。	・個人生活における健康課題を見つけ、その合理的な解決に向けて意欲的に思考し、判断しようとするすることができる。

教科主任が上の表をまとめた後、更に部会で分担し、どの教科の教員が見ても分かりやすいように内容を吟味した。この活動によって、重点目標を一人一人の教師が意識して、実践に移すことができるのではないかと考えた。

③ 重点目標の焦点化

教科のカリキュラム・マネジメントでは、中学3年生の目標達成の姿を明確にすることができた。しかし、各学年の到達目標がはっきりしていないという意見があったため、次は各学年の到達目標について検討していくことにした。以下が、②を学年ごとの目標に焦点化したものである（資料12）。

【資料12 八名中学校 教科のカリキュラム・マネジメント焦点化 理科の例】

教科	学年	本気	話し合い	創造
理科	1年	・実験・観察に対して目的意識をもって取り組むことができる。	・実験・観察の方法、結果の予想、考察等をグループで話し合い、理解を深めることができる。	・実験・観察の結果を自分の考えをまとめ、考察することができる。
	2年	・実験・観察に対して目的意識をもって取り組み、意欲的に探究することができる。	・実験・観察の方法、結果の予想、考察等をグループで話し合い、仲間の考えに耳を傾け、自分の考えや見方を広げることができる。	・実験・観察の結果を考察し、規則性を見出したり、課題を解決したりすることができる。
	3年	・実験・観察に対して目的意識をもって取り組み、意欲的に探究することができる。	・実験・観察の方法、結果の予想、考察等をグループで話し合い、仲間の意見に耳を傾け、自分の考えや見方を広げ、考えを再構築することができる。	・実験・観察の結果を考察し、規則性を見出したり、課題を解決したりし、その知識を身近な現象と関連付けて考えることができる。

④ 育成を目指す資質・能力との関連を意識した授業実践

ア 重点目標を意識した指導案の工夫

教科ごとに焦点化した重点目標を意識して授業を行えるように、指導案の中にカリキュラム・マネジメントの視点を取り上げていくことを考えた。本時の指導の中で重点目標に関する活動を取り上げ、「本気」「話し合い」「創造」の具体的な生徒の姿が明確になるような指導案（添付資料4）にすることにした。

単元目標は新指導要領の3本柱で表現した。「3単元について」では、他教科とのつながりを意識した言葉にしている。「5身に付けたい力」では、本校の重点目標に関する活動をどの小単元で行うのかを示した（資料13）。カリキュラム・マネジメントの

【資料13 指導案の一部】

5 身に付けたい力						
(1) カリマネ観点からの重点目標						
	本気	話し合い	創造			
	・実験・観察に対して目的意識をもって取り組み、意欲的に探究することができる。	・実験・観察の方法、結果の予想、考察等をグループで話し合い、仲間の意見に耳を傾け、自分の考えや見方を広げ、考えを再構築することができる。	・実験・観察の結果を考察し、規則性を見出したり、課題を解決したりし、その知識を身近な現象と関連付けて考えることができる。			
(2) 単元評価表 (○教科目標に対する評価、●カリマネ観点からの重点目標に対する評価)						
	学びに向かう力 人間性	知識 技能	思考力 表現力 判断力	本気	話し合い	創造
1. 仕事とは何か		○	○	●	●	
2. エネルギー	○	○	○	●		●
3. 力学的エネルギーの保存		○				●
4. エネルギーとその移り変わり	○		○	●	●	●
5. エネルギーの保存と利用の効率		○	○		●	●
6. 熱エネルギーの効率的な利用		○				●

【資料14 指導案の一部】

考えの下、授業の中でも教育目標を意識して授業展開を考えていけるような工夫である。

「6 単元構想」では、他教科のつながりを示し、教科等横断的な内容であることを指導案の中に明記することにした。また、他教科との関係については、4月に作成した年間指導計画の「他教科とのつながり」の欄から引用し、生徒に他教科の既習内容を質問したり、教師が意図的に関連した内容を提示したりできるようにした(資料14)。

授業者が、教科の目標、重点目標のどの項目を意識して授業展開を考えているか等がはっきりと分かるよう、本時の指導に示すことにした。また、重点目標に関する活動については、展開の中に位置付けた。

これに加え、前時までの活動や本時の生徒への願いを示した座席表を作成し、指導案から授業者のカリキュラム・マネジメントへの意識、生徒へのアプローチが分かるようにした。

イ 授業の実際

(7) 理科の実践「本気、話し合いを重視した授業」

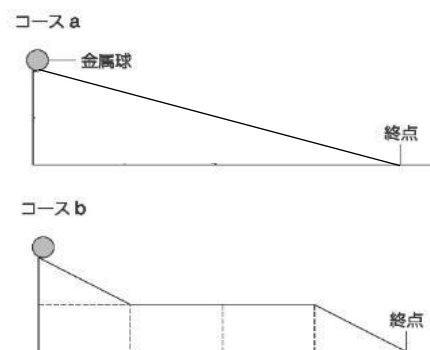
3年「仕事とエネルギー」の単元では、規則性や法則を見出していく過程において、一人の生徒の気付きを全体に広めるために話し合い活動を重視し、授業の中に位置付けていく。科学的な根拠を基にして、考えを練り上げていくことで、論理的な思考の深まりを期待している。以上のように、身近な現象を教材とし、興味・関心を高められる課題の提示によって生徒を本気にさせること、生徒主体の話し合い活動を充実させることを軸に、科学的な見方、考え方を養っていきけるように心がけた。

本授業では生徒を本気にさせる導入を意識して、二つのコースに球を転がし、どちらが速くゴール地点(終点)にたどり着くのか問いかけた(資料15)。課題によって揺さぶりをかけたことで、抽出生徒を中心に活発な意見交換が行われ、課題について真剣に話し合う姿が見られた。

予想では、「a・bコースともに同じ」「aコースが速い」「bコースが速い」、の順に生徒の人数が多かった。抽出生徒Aは、終点にたどり着くのは同じタイムになると考えた。「コースbの斜面の部分はコースaの半分の距離で角度は2倍だから、結果的に同じタイムでゴールする」と考えを発表した。自分なりにコースの様子を見て、よく考えられた予想に、他の生徒も納得した様子であった。抽出生徒Bは「終点に着くのが同じになるのでは。高さが同じだから、aはビューン、bはビューンビューンとなって…」と話したが、級友が「勢いが違うから、力が加わり続けるaのコースの方が速い」と意見を出すと、抽出生徒Bもその考えを聞き、ワークシートの予想の欄には「コースa」とした。

(2) 展開			
時間	学習活動【 ◆発問 ○生徒の反応 ※教師の支援 評価 ★カリマネ視点 】		
5分	<ul style="list-style-type: none"> ◆振り子の動きを確認しよう。 ○振り子は最も低い部分で運動エネルギーが最大になり、スピードが速くなる。 ○運動エネルギーが位置エネルギーに移り変わった。 ◆位置エネルギーと運動エネルギーの移り変わりが見られるジェットコースターについて考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ※実際の振り子の運動を観察させ、前時の学習ポイントを確認する。 ※動画を基に、球のスピードと高さの変化を考えさせる。 	
	<p>★本気</p> <p>どちらのコースの方の球が先にゴールするだろうか。</p>		
15分	<ul style="list-style-type: none"> ◆既習事項や生活体験を基にどちらのコースが速く球がゴールするのか考えよう。 ○一気に落ちた方が斜面に沿う力が加わり続けるからaの方が速いはず。だから、速くゴールするのはa。 ○bは途中で平面になるから、その分球が加速できないと思うから、スピードはでない。 ○同じでしょう。同じ高さだから。位置エネルギーは同じで運動エネルギーに変わるはず 	<ul style="list-style-type: none"> ○bの最初の斜面は急だから平面の速度がaより速いのでは。だからbの方が速く着くはずだ。 	
	<p>★話し合い</p>		<p>課題に対して意欲的に探究し、</p>

【資料15 どちらのコースが速く終着点にたどりつくのか】



予想が出そろった後、実際にコースを用意し、球を転がす演示実験を行った。見事に同時にゴールする結果を見て、「やっぱり」と思う者と「どうしてだろう」と考える生徒がいた。抽出生徒Bは仲間の意見を聞きながら、「高さが同じだから、斜面の部分の角度と長さが違っても、ゴールを通過するタイムが同じになる」と考えるようになった。生徒の意見の中には「高さが同じで位置エネルギーが同じだから運動エネルギーも同じ。だから、どちらのコースもゴールするのが同じ！」と考えをまとめる生徒もいた。そこで、「同じ高さから球を転がして、終点の位置を同じにした場合、a b コースより速くゴールをするコースができるか」と尋ねた。ほとんどの生徒が「速いコースができない」と考えた。実際に班で話し合いながら、速くゴールを通過するコースについて考えると、ある生徒から「コースの断面図の面積が小さくなると、ゴールするのが速くなるのではないか」という意見があり、演示実験で確認してみると、速くゴールするコースが存在することが分かった。「位置エネルギーが同じでも、ゴールする速さが変わるのはなぜか」という次時の課題につなげた。

仲間との話し合いの中で、考えを構築する授業を行うことができた。しかし、話し合いの内容を見ると、速さに目を向けている生徒と力に目を向けている生徒がいて、視点が定まっていなかったため、仲間の意見を聞くときに、理解ができない生徒がいた。教師が意見を整理する必要があったが、うまくできなかった。

(イ) 英語科の実践「総合的な学習の時間とのつながりを意識した授業」

2年の英語科では、8月の職場体験に向けてのガイダンスを終え、体験する事業所を選んでいる時期に「Unit3 Career Day」の授業を行った。本単元での「情報を整理して話す練習」を通して自分の気持ちを基に、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにしたいと考えた。

ウォームアップで英語の表現を練習した最後に「What's the purpose of your Career Day (職場体験)?」と生徒に尋ねた。抽出生徒Aは「えっ、何だろう」と考え込んでいる様子であった。この様子が、「言いたいことはあるけれど、英語で何と云えばよいのか分からない」なのか、「職場体験の自分の目的自体を考えたことがなかった」のか、どちらかは不明であるが、本気になって考える場面となった。英語が得意な抽出生徒Aは、「難しい」と感じる機会を設定したことによって、「表現したい」という意欲、本気の気持ちが高まったと考えられる。

教師から新出文型として「want to (～したい)」という表現について押さえ、「この表現を使えるようになると、自分のしたいこと、なりたいものが言えるから、便利になる」と教師が話すと、多くの生徒がうなずき、ドリル学習に精を出し始めた。

次に、履歴書ワークシートに個人の履歴書を書く活動を行った(資料16)。職場体験学習中に事業所の方に質問される可能性がある内容をピックアップすることで、生徒たちの本気度を引き出すねらいである。

最後の職場体験の事業所を選んだ理由の欄には、英語の苦手な抽出生徒Bは「I want to build a house.」と自信をもって記入している様子だった。履歴書作成後、話し合い活動として面接担当者を想

【資料16 履歴書ワークシート】

第1希望事業所名: _____	
NAME	
BIRTHDAY	20____年 ____月 ____日
LANGUAGE	Japanese / English / Others (_____)
CLUB ACTIVITY	baseball / soft tennis / Japanese archery / table tennis volleyball / basketball / brass band
HOBBY	reading / listening to music / fishing / sport / drawing / studying languages / others(_____)
SCHOOL	_____ Junior High School, _____th grade
FAVORITE SUBJECT(S)	Japanese / geography / history / math / science / English / music / art / technology / Home economics
QUALIFICATION	Eiken _____th grade / Kanken _____th grade / Others _____
COMPUTER	I can use computers. / I cannot use computers.
WHY I WANT TO WORK at	example: I want to make robots. I want to be an engineer.
第1希望事業所	

定してペアワークで質問練習を行った。抽出生徒Aは「栄養士になりたい」というところまではスムーズに話すことができたが、「なぜその仕事に就きたいのか」という点については、「え、何でだろう。何でかな」と、自問自答していた。抽出生徒Bは、職場体験で建築会社へ行きたい理由として「I father… father house」と、必死で単語を並べて伝えようとしているのを聴き、周りの生徒が「My fatherだよ、そこ。My father builds a house. だろう」と、助け船を出していた。生徒Bが本気で伝えようとした結果、言いたかったことが周りの生徒に伝わったのだと考えられる。自分のことについて積極的に表現しようとすることで、「これまでの学習を応用して自分のことを表現しなくては」という意識が高まった。

タイムリーな職場体験学習に結び付けたことによって、生徒一人一人が「自分事」として、興味をもっている職業名や「したいこと」を表現するために必要な言いまわしを積極的に学ぶことができた。

(ウ) 学ぶ時期を意識した保健集会の取組

保健給食委員会では、毎年保健集会を運営している。研究1年目の生活習慣改善に関する実践の反省から、本校の生徒はよりよい生活について知識はあり、生活習慣をよりよくしたいという意欲の高まりは見られるが、行動が変容した生徒は多いとは言えない。これを受け、生涯のうち日本人の二人に一人がかかると言われるほど身近で、かつ命に関わる病気である「がん」について取り上げ、深い学びを目指した集会の計画を考えた。「がん」と関連する他教科の内容は資料17の通りである。

【資料17 「がん」と関連のある各教科の単元一覧】

・第2学年 理科	6月後半～「身近な動物と観察」
・第3学年 理科	6月後半～「生物の成長とふえ方」
・第1学年 保健体育科	6月～ 「生活習慣と健康」
・第3学年 保健体育科	6月～ 「健康な生活と病気の予防」

他教科での学習を踏まえた上で、集会の時期を決めることで、より「がん」について理解を深まることができると考え、7月に集会を設定した。さらに、生徒主体の活動にするために、委員会では集会の内容について話し合うことにした。「どんな集会にしたいか」という教師の問いかけに「みんなには生涯健康でいてほしいので、今中学生に何ができるかを伝えたい」「劇なら、みんな興味をもって見てくれるのではないか」「がんについて詳しい方に話を

してもらいたい」「そもそもみんなのがんに対する意識はどのようなものだろうか」等の意見が出た。このような生徒の意見を基に集会を計画することにした。委員会の話し合いの結果、「〇×クイズ」「事前アンケート」「保健師による講話」を行う計画が固まった（資料18）。

保健集会では、「がん」についての〇×クイズを行った後、生徒の疑問を中心に保健師から講話をいただいた。生徒の思いを大切に、保健集会をつくることで、委員会生徒の「本気」の活動につながった。また、生徒にとって身近な病気となっている「がん」について取り上げたことで、全校生徒の「知りたい」という「本気」の取組となった。資料19は集会の振り返りである。

【資料18 事前アンケート「がんについて知りたいこと」生徒の記述より】

- ・毎日の生活で気を付けた方がよいことはどんなことか
- ・学生の間にかかったら進学等どうなるのか
- ・食事や生活をどんなに気をつけても「がん」になってしまうのか
- ・人間以外もがんになるか
- ・再発について
- ・どんな症状があるか
- ・がんになってからの経過
- ・何歳くらいからなるか
- ・薬（治療）の値段
- ・どのくらいの人がかかるのか
- ・どんな人がかかるのか
- ・初期症状
- ・治療法や期間
- ・がんを見つける方法
- ・治る確率
- ・がんの種類
- ・体に起こる変化
- ・治療成功率
- ・がんの危険レベルについて
- ・どんな病気か
- ・致死率



【写真3 生徒主催の「がん」についてのクイズ】

【資料 19 生徒の感想】

- ・がんは、細胞分裂で大きくなると聞き、最近、理科で細胞の勉強をしたことを思い出した。心臓はがんにならないと知って、以前は心臓病というのががんだと思っていたので、知ることができてよかった。男性は、胃がんや肺がんになりやすくて、死亡率も高いと分かったので、がんにならないためにも三つの原因「ウイルス」「生活習慣」「遺伝」などをしっかりと気にして早期発見をしたい。(2年男子)
- ・がんは、二人に一人がなると知ってとても驚いた。これからは身近なものと考えたい。今日教わったことは、理科の勉強とつながるものがあったとてもおもしろかった。予防できることを知ったので、これから気を付けていきたい。(3年男子)

生徒の感想からも分かるように、他教科とのつながりを考えて保健集会を行う時期を検討したことで、各教科の理解と「がん」への関心の高まりが感じられた。

(エ) まとめ

授業実践では、学校全体で取り組んでいる「本気」「話し合い」「創造」のキーワードを意識して展開を考えた。今後も、生徒の学習状況、生活の様子等をしっかりと捉え、学校目標を意識した取組をし、生徒理解を図っていき

たい。また、本校は、生徒の人間関係がよく、落ち着いて授業に集中できる環境が整っているため、違った意見をもった生徒にも寛容な態度で意見交換ができるよさがある。この長所を生かして、発問を工夫し、生徒が本気になって悩み、話し合う姿が見られる授業を目指したい。

(4) 授業研究、評価データを基にしたカリキュラム改善

① 研究2年目の1学期を振り返って

1学期の年間指導計画の進捗状況とカリキュラム・マネジメントの重点目標から教育活動を振り返り、実践報告書を作成した(添付資料5)。

この実践報告書により、生徒は重点目標達成に向けて、努力を重ねることができた1学期であったと認められた。また、カリキュラム・マネジメントの考えの下、本校の生徒にあった重点目標であるように感じた。今後も、「本気」「話し合い」「創造」の関連のある活動を取り入れていくことを確認できた。

全教職員に2学期の教育活動において力を入れていきたい重点目標について尋ねると、「本気」「話し合い」の二つの答えがあった。議論を重ねていくと、「本気」が本当の「話し合い」を生み、更に「創造」に発展するという考え、仲間と「話し合う」ことで心に火がつき「本気」の活動が生まれ、「創造」につながるという考えであることが分かった。共通して言えることは、どの教職員も三つの重点目標のうち、土台となる力を伸長させ、「創造」につなげたいと願っていることである。この重点目標強化項目について、一人一人に任せ、「本気」「話し合い」を意識して授業実践に取り組んでいくことにした。



② 研究2年目の現職研修(8月より)

部会に分かれて、9月実施の市教委学校訪問の指導案に重点目標達成のための効果的な活動が取り入れられているのかどうかという点を協議した。

この協議において、指導案の重点目標項目に生徒の具体的な姿が見えないという意見があった。そこで、次のように重点目標の活動での生徒の学びを記載する形式に変更することにした(資料20)。



【写真4 「がん」について保健師からの講話】

(2) 展開		学習活動【 ◆発問 ○生徒の反応 ※教師の支援 評価 ★カリマネ視点 】
5分	<p>◆振り子の動きを確認しよう。</p> <p>○振り子は最も低い部分で運動エネルギーが最大になり、スピードが速くなる。</p> <p>○運動エネルギーが位置エネルギーに移り変わった。</p> <p>◆位置エネルギーと運動エネルギーの移り変わりが見られるジェットコースターについて考えよう。</p> <p>どちらのコースの方の球が先にゴールするだろうか。</p>	<p>※実際の振り子の運動を観察させ、前時の学習ポイントを確認する。</p> <p>※動画を基に、球のスピードと高さの変化を考えさせる。</p> <p>★本気 生徒の興味を引く課題を提示し、自然現象を論理的に考え、証明する面白さを味わわせる。</p>
15分	<p>◆既習事項や生活体験を基にどちらのコースが速く球がゴールするのか考えよう。</p> <p>○一気に落ちた方が斜面に沿う力が加わり続けるから a の方が速いはず。だから、速くゴールするのは a。</p> <p>○b は途中で平面になるから、その分球が加速できないと思うから、スピードはでない。</p> <p>○同じでしょう。同じ高さだから。位置エネルギーは同じで運動エネルギーに変わるはずだから。</p> <p>○距離は a の方が短いから…。コース a が速い。</p> <p>○b の最初の斜面は急だから平面の速度が a より速いのでは。だから b の方が速く着くはずだ。</p> <p>★話し合い 共通の体験を基に自分の考えを深めたり、広げたりする</p>	<p>コース a</p>  <p>コース b</p>  <p>★話し合い 課題に対して意欲的に探究し、根拠を基に自分の考えをもつことができたか。(ノートの記述・発言から)</p>
10分	<p>◆同時に球を転がす演示実験を観察し、なぜ同じ速さになるのか考察をしよう。</p> <p>○b の平面の前半は a の同じ場所より運動エネルギーが大きいけれど、後半は a の方が運動エネルギーが大きいから同じくらいの速さになるのでは。</p> <p>○最初の位置エネルギーが同じなら、ゴールする速さは変わらないんだ。</p> <p>★話し合い 実験の結果から、なぜ違うコースを転がる球が同じ時間にゴールするのかを意欲的に考える</p> <p>○位置エネルギーが同じでも、絶対ゴールする速さは変わるはずだ。</p>	<p>※クラス全体の理解を深められるように、図を用いて説明するように促す。</p> <p>※最初の位置エネルギーが同じならゴールするのも同じと考える生徒に揺さぶりをかける発問をする。</p> <p>※スタートの高さ、ゴールの場所は同じだという条件から、速くゴールするコースを班ごとに考えさせよう。</p>
15分	<p>◆同時に球を転がす演示実験を観察し、なぜ同じ速さになるのか考察をしよう。</p> <p>○b の平面の前半は a の同じ場所より運動エネルギーが大きいけれど、後半は a の方が運動エネルギーが大きいから同じくらいの速さになるのでは。</p> <p>○最初の位置エネルギーが同じなら、ゴールする速さは変わらないんだ。</p> <p>★話し合い 実験の結果から、なぜ違うコースを転がる球が同じ時間にゴールするのかを意欲的に考える</p> <p>○位置エネルギーが同じでも、絶対ゴールする速さは変わるはずだ。</p>	<p>※クラス全体の理解を深められるように、図を用いて説明するように促す。</p> <p>※最初の位置エネルギーが同じならゴールするのも同じと考える生徒に揺さぶりをかける発問をする。</p> <p>※スタートの高さ、ゴールの場所は同じだという条件から、速くゴールするコースを班ごとに考えさせよう。</p>

③ 2学期の授業での取組

カリキュラム・マネジメントに関する1学期の反省を生かし、10月に校内授業研究を行った。この授業研究では、話し合いから本気の気持ちを高めていくことを重視した展開を考えることにした。

2年の社会科「身近な地域の調査」の単元では、ふるさとである八名地域の現状を取り上げた。地域素材を教材化することにより、生徒は興味関心をもって授業に取り組み、一人調べを意欲的に進め、保護者や祖父母に八名の現状についてのインタビューも積極的に行うことができた。本気になって、「ふるさと八名」について追究する姿が伺えた。また、生徒の思考に沿って授業が展開できるように、本単元ではペアやグループでの学習を多く取り入れる等、工夫をした。

本時までには、生徒たちは調べ学習によって、「ふるさと八名」は人口が減少し、商店も軒並み閉店している現状を知った。また、ゲストティーチャーとして市役所の職員を招き、地域を活性化するために取り組んでいる活動やその思い等を紹介していただいた。これらを踏まえ、本時の授業では八名地区のこれからについて話し合った。

「ふるさと八名」についての話し合いは積極的に行われ、「若い人が地域のことを手伝ったり、協力したりすればよい」「今の八名には働く場所がなくて、若者がいなくなってしまうから、農業で働けるようにする」等、初めは外から見た一般的な意見が出された。授業が進むにつれ、「私たちが祭りや歌舞伎等の地区の行事に参加する」「中学生の私たちが地域を盛り上げられるようにイベントを考えたい」等、自分たちがふるさとに対し、今



【写真5 ゲストティーチャーからのふるさと講話】

できることを考えた意見に変化し、深まりが感じられた。地域学習をしていく中で自分自身を振り返り、一般的な過疎地域の改善対策から、「ふるさと八名」のために自分ができることという視点にまで広げることができた。

しかし、生徒の意見には「祭りに参加する」とは言うが、「担い手になりたい」というものはなかった。まだまだ、「ふるさと八名」について本気になって考える切実感が弱いことを実感した。教材の与え方や発問の工夫、焦点化等を更に研究していく必要があると感じた。この授業をきっかけとして、課題に対して本気になれる生徒を育む手だてを考えていくとともに、学校の教育活動全体で話し合い活動のレベルアップを目指し、実践を重ねていくという目標が明らかとなった。

(5)「教育目標（目指す子ども像）に近づいているかどうか」の評価

- ・全教職員が検討用シートに取り組み、4月、9月、12月のデータを比較
- ・生徒はカリキュラム・マネジメントアンケート（添付資料6）に取り組み、4月、9月、12月のデータを比較

この生徒アンケートは、「全国学力・学習状況調査」の質問紙アンケートを基に、本校の重点目標「本気」「話し合い」「創造」と照らし合わせ、関連があると考えられる項目を参考にして作成した。参考にできるものを上手に取り入れていくことで、原案から考えるよりも短時間でアンケートを作成することができた。

5 カリキュラム・マネジメントの取組の成果

(1) 当事者意識の高まりと教育目標（目指す子どもの姿）の共有

全教職員に実施した検討用シートの項目を取り上げる。項目のポイントは最大値4で、全教職員のアンケート結果を集計し、平均値で比較した（資料21）。

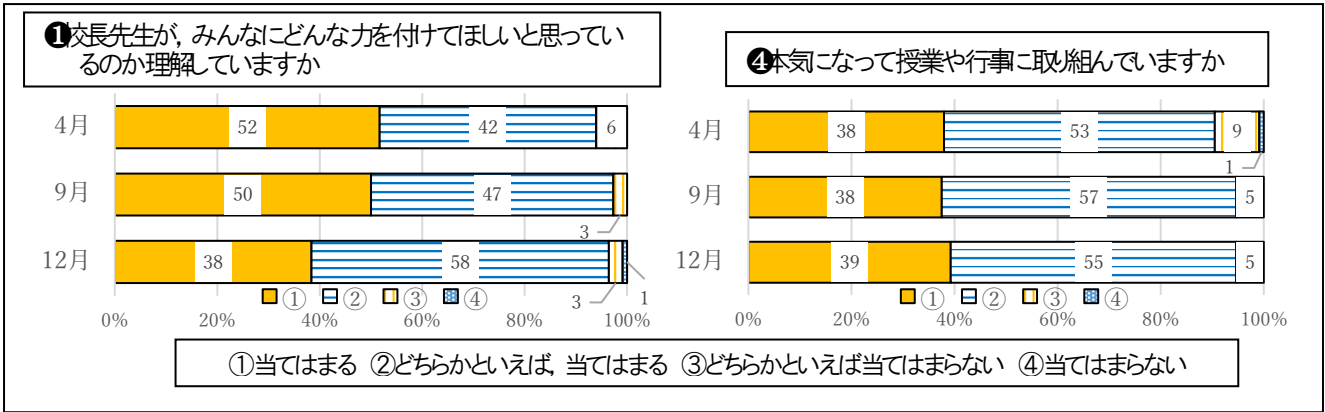
【資料21 カリキュラム・マネジメント検討用シートの一部】

項目		4月	9月	12月
1	学校全体の学力傾向やその他の実態、課題について、全教職員が共有している。	2.79	3.21	3.36
7	あなたは、学校の教育目標や重点目標を意識して授業や行事に取り組んでいる。	2.93	3.36	3.43
9	あなたは、既習事項や、先の学年で学ぶ内容との関連（系統性）を意識して指導している。	2.64	3.21	3.36
21	あなたは、学校として力を入れている実践（特色）を具体的に説明できる。	3.07	3.21	3.21

この結果を比較すると、カリキュラム・マネジメントに取り組んだ結果、12月では全ての項目においてポイントが上昇していることが分かる。これは、全教職員が教育目標を以前より意識して行事や授業、その他の活動に取り組んだ成果だと考えられる。何事においても例年どおりに活動を考えるのではなく、「本気」「話し合い」「創造」の重点目標を意識して、行事計画や授業構想を考えることができた。大きな改革ではなく、今あるものを重点目標と関連付けて工夫するという教職員の意識の高まりを感じた。これも現職研修の時間に全教職員で各種カリキュラム・マネジメントシートに取り組んだ成果だと考えられる。

次頁の資料22からも12月までに「①当てはまる」「②どちらかといえば、当てはまる」の合計ポイントの平均が、高くなっていることが分かる。これは校長講話、グランドデザインの掲示、教職員によるカリキュラム・マネジメントの視点を生かした授業等の実践により、生徒も学校目標や重点目標を意識して学校生活を送っているからだと考えられる。9月末、後期生徒会役員選挙が行われた。ここで立候補者の中に、学校目標の達成を目指した公約を発表している生徒がいた。これも、生徒が常に学校目標を意識して生活をしているからだと言える。

【資料22 生徒カリキュラム・マネジメントアンケートの一部】



教職員、生徒とともに学校目標を共有し、重点目標の達成を意識して生活するという方向性を共有して、教育活動に取り組むことができていることが、カリキュラム・マネジメント検討用シート、生徒アンケートの結果から分かる。

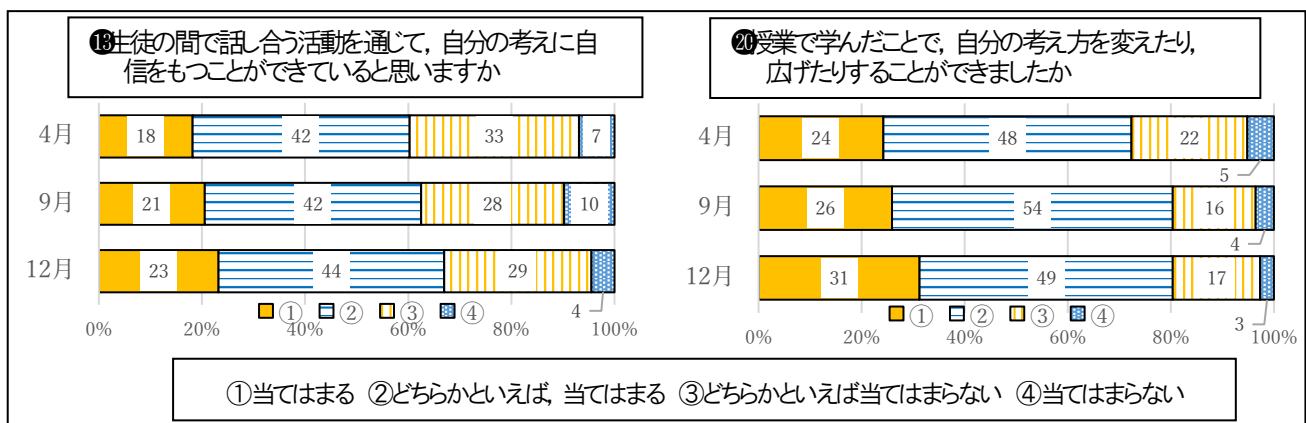
(2) 重点目標の焦点化

本校では、重点目標「本気」「話し合い」「創造」に関連した活動を各教科でどのように取り入れていくのかを考えてきた。教科ごとに活動を考え、学年ごとに重点目標に関連する達成基準を設定し、「教科のカリキュラム・マネジメント」を作成した。学校目標と授業のつながりを意識するに当たって、自分の教科指導を振り返るよい機会となった。しかし、「教科のカリキュラム・マネジメント」をつくるために費やす時間、重点目標の変更に伴うシートの改良等、問題点も多いように感じた。また、日々の授業で教科のカリキュラム・マネジメントで焦点化した目標について意識できたかは課題が残る。教科と学校目標をつなげ、授業者が意識できる取組となったが、簡単に教科での重点目標の焦点化ができるような工夫を今後、研究をしていかなければならない。

(3) 教育目標（目指す子どもの姿）を意識した学習指導案の作成と主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善

本校の重点目標を意識するために、「本気」「話し合い」「創造」をキーワードとした活動を授業の中に位置付けられるような指導案の作成を行った。「本気」「話し合い」「創造」とは、正に新学習指導要領に記載されている「主体的・対話的で深い学び」に通じる活動である。資料23から、指導案で重点目標の活動における生徒の具体的な姿を記し、授業実践を重ねたことが、結果につながってきていると考えられる。

【資料23 生徒カリキュラム・マネジメントアンケートの一部】



生徒が話し合いを通して、自信をもつこと、自分の考えを広げることができるようになってきているという結果が出ている。

(4) 授業研究, 評価データを基にした

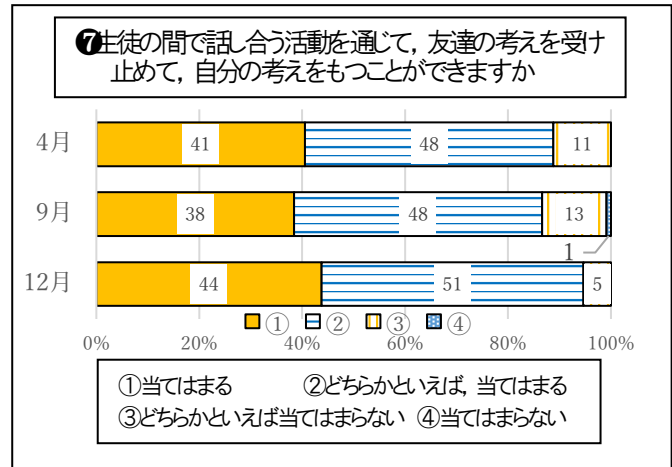
カリキュラム改善

授業者の思いが明確になるように、また参観者が視点をもって授業を見られるように指導案の改善を授業研究ごとに行った。

アンケート結果から「友達の意見から自分の考えをもつことができる」の項目が、4月～9月で低下したが、12月で上昇していることが分かる(資料24)。これは、1学期の教育活動を全教職員で振り返り、重点目標「本気」「話し合い」「創造」の力を育成するためのさらなる手だて

を考え、2学期に実践を行った成果だと感じられる。しかし、12月に行った教職員アンケートでは「生徒の話し合いのスキル」の項目が低くなっていることが分かる(資料25)。これは、教師側が考える話し合いのレベルには、本校の生徒の力がまだまだ達していないということである。今後も、生徒が切実感をもって話し合いができる形を模索し、生徒の話し合いが、教師の目指す姿に近づけられるように指導を重ねていきたい。

【資料24 生徒カリキュラム・マネジメントアンケートの一部】



【資料25 教職員アンケート】

教職員アンケート (14名)	よくあてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	ほとんどあてはまらない
生徒は、朝の話し合い活動に積極的に取り組んでいる。	3人	10人	0人	1人
生徒は、朝の話し合い活動によって「話し合いのスキル」の上達が少しずつ見られるようになってきている。	0人	12人	1人	1人
生徒は授業で、本気に取り組んだり、話し合いを積極的に行ったり、新しいものを創造する力が身についたりしている。	1人	11人	2人	0人
あなたは、カリキュラム・マネジメントの視点を意識して日々の授業に取り組んでいる。	3人	10人	1人	0人
あなたは、カリキュラム・マネジメントの視点を意識して職員会議での行事の検討等を行っている。	1人	9人	4人	0人

また、本校の三つの重点目標の活動については、教科等横断的に常にどこかの教科で取り組んでいるような形にすることが大切であると感じた。視覚カリキュラムを利用して、重点目標に関する活動を各教科に位置付けていたり、年間計画の段階で単元の並びを変更して内容的、資質的なつながりを生かした指導を行ったりするなど、学校目標の達成に近づくように工夫する必要がある。しかし、年度中に年間指導計画を変更していくことは、困難である。反省を生かし、学習内容で教科等横断的に取り組むことができる教科、重点目標に関わる活動が教科を越えて取り組むことができる単元等を検討し、指導計画を立てていきたい。

(5) 学校全体(組織運営, 働き方など)の改善

校長, 教頭, 教務主任, 研究主任でカリキュラム・マネジメント委員会をつくり, 研究を進めた。担

任をもった研究主任が本校のカリキュラム・マネジメントを推進していくことは、教職員への指示や依頼だけでなく、実際に先頭に立って授業実践を進めたり、指導案を書くことで形式を提案したりすることができた。押し付けではなく、一緒に研究を進めているという意識を高められた。リーダー項目からも校長を中心に学校全体の運営を組織的に行い、研究主任として教職員を引っ張ることができたと感じている（資料26）。

【資料26 カリキュラム・マネジメント検討用シート リーダー項目】

	リーダー項目	4月	9月	12月
25	校長は、教育と経営の全体を見通し、ビジョンを示している。	3.07	3.36	3.57
26	教頭は、ビジョンの具体化を図るために、学校として協働して取り組む体制や雰囲気づくりに尽力している。	2.93	3.14	3.29
27	主任や中堅教員は、ビジョンをもとにカリキュラムの工夫や研究推進の具体策を示して実行している。	2.71	3.21	3.36

実際に授業の進め方や指導案の書き方等を研究主任が担当する授業を通して教職員に示し検討していくことで、生徒の反応を見たり、例に習って文章を作ったりすることのヒントにつながったと考えている。また、研究主任と教職員との距離が近く、さまざまな疑問や提案等を話し合い、研究の改善を進めることができた。そういう意味では、指導の立場にある教務主任が研究を進める以上に、教職員の声を吸い上げられた。そんな中、「研究によって長時間働くようになった」という意見が出た。確かに各種カリキュラム・マネジメントシートは現職教育の時間に取り組んだが、教科のカリキュラム・マネジメントや指導案の検討等、勤務時間内では時間が足りなかった。上手に研修の時間を設けること、今回の研修の流れをマニュアル化していくことで、できる限り効率よくカリキュラム・マネジメントが進められるようにしたい。時間をうまく使い、自校の教育目標の達成ができるように工夫する必要性を感じた。

6 まとめ

2年間、試行錯誤しながら研究を行ってきた。「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究」を進めるに当たって、当初は参考にできる実践も少なく、何をしてよいのか手探り状態であった。研究の終着点分からないまま、カリキュラム・マネジメントの考えの基本である教育目標の達成ができるように考えられる実践を積み重ねてきた。

研究を通して、改めて確認できたことは、学校という組織全体で一つの目標に向かって前進していくことの大切さである。学校の核である教育目標を意識して、教職員、生徒、地域が一枚岩となり、自校の生徒に力を付けられるように学校行事、授業、生活指導等の実践を積み上げていくことが、新学習指導要領にも大きく取り上げられている「カリキュラム・マネジメント」につながるということが分かった。

私たちの研究は「正解」を見つけたわけではない。目の前の生徒、学校の環境等、日々の変化に対応しながら、今後も学校目標の達成を目指し、組織を挙げて実りある実践を重ねていきたい。

添付資料 1

SWOT分析シート

外部環境把握シート

外部環境要因	客観的な特徴や事実	支援的に働く場合	阻害的に働く場合
地域住民	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生が多く、PTA活動にも積極的で、コミュニティ活動も活発である。 地域をよくしたいという思いをもち、知識や経験が豊富である。 共育ふれ合い活動等、地域主催行事が活発に行われている 	<ul style="list-style-type: none"> 学校での各種行事や総合的な学習の時間等を手助けしてくれる。 様々な情報を学校に与えられる。 学校を大切に思ってくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校がよくない情報をまわりに広げられることがある。 地域の方々の険悪な関係を学校に持ち込んでしまうことがある。 学校への思いが強すぎて活動とかみ合わないことがある。 地域の要望による教員の仕事量が増加する。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動に熱心であり、協力体制がしっかりしている。 三世代同居の家族が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の取組に対して生徒を後押ししてくれる。 学校での各種行事、活動をサポートしてくれる。 部活動の試合、練習試合で郊外へ出る時等、生徒の送迎をしてくれる。 生徒が規則正しい生活をおくれるように指導してくれる。 集金をしっかりと支払ってくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 誤った情報が交錯して保護者間に広がることもある。 保護者の人間関係が生徒に影響することがある。 学校と保護者の関係がくずれると、修復するのに時間がかかる。 保護者と教員との距離が近すぎて、関係が「なあなあ」となっている。
歴史・文化・自然・産業	<ul style="list-style-type: none"> 歴史ある古墳や寺がある。 五葉湖のシモバシラが有名。 自然豊かである。 企業団地がある。 昔からの文化が引き継がれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間に活用できる。 企業訪問を通してキャリア学習を行うことができる。 学校行事を関係づけられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が多忙なため、歴史、文化、自然、産業等を活用した指導をする時間がつかれないでいる。

内部環境把握シート

内部環境要因	客観的な特徴や事実	強みとして働く場合	弱みとして働く場合
職員	<ul style="list-style-type: none"> 少ない。 世代のバランスが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションがとりやすく、生徒について相互理解ができる。 経験のある職員から若手が様々なことを吸収できる。 何事にも協力して取り組むことができる。 人数が少ないため、校務分掌が多く、様々な仕事を経験でき、個々の能力の成長につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数なため、行事運営や生徒指導等、目が届きにくいところがある。 1人1人の仕事量が多い。 行事の時、特に人手不足。 勤務時間が増加し、体力的に厳しい面もある。
生徒	<ul style="list-style-type: none"> 小規模で人数が少ない。 素直である。 協力的である。 3世代で暮らしている者が多い。 こども園からほぼ同じメンバーで中学校まで上がってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の指示が通りやすい。 授業に対して一生懸命取り組む。 落ちついた雰囲気で行事や学校生活を送ることができる。 与えられた仕事に対し、責任をもってこなすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考え、積極的に動けない面がある。受け身である。 まわりのことを伺い、一歩前に出られないことがある。 こども園から同じ人間関係なため、ある意味生徒同士牽制し合ってしまうことがある。 他人に意見を上手に伝えられないことがある。

添付資料 2

○カリキュラム・マネジメント検討用シート一部の結果

要素	項目	平均	
ア 教育目標	1 学校全体の学力傾向やその他の実態，課題について，全教職員が共有している。	2.79	
	2 学校の教育目標や重点目標は，生徒や地域の実態を踏まえて設定されている。	3.07	
	3 学校の教育目標や重点目標には，「生徒に身に付けさせたい力」や「めざす生徒像」が具体的に記述されている。	3.07	
イ PDCA	4 学校経営案や学年・各教科の指導計画等に示す目標や内容等は，それぞれが連動するよう作成されている。	2.50	
	5 学校経営案や学年・各教科の指導計画等に示す目標や内容の相互関連が一目でわかるような全体計画や年間指導計画が作成されている。	2.43	
	6 学習成果の評価（規準や方法，時期など）について，年度当初に計画している。	2.79	
	PDCA D（実施）	7 あなたは，学校の教育目標や重点目標を意識して授業や行事に取り組んでいる。	2.93
		8 あなたは，学年・各教科等に示す目標や内容の相互関連を意識して，日々の授業を行っている。	2.64
		9 あなたは，既習事項や，先の学年で学ぶ内容との関連（系統性）を意識して指導している。	2.64
	PDCA C（評価）	10 あなたは，学校の年間指導計画の改善に役立つような記録（メモ）を残している。	2.36
		11 生徒の学習成果の評価だけでなく，授業の評価も行なっている。	2.43
		12 学校として取り組んでいる授業研究が学校の課題解決に役立っているかについて評価している。	2.21
	PDCA A（改善）	13 年間学習指導計画の反省等を，次年度に向けた改善につなげている。	2.79
		14 定期テストや全国学力状況調査等の分析結果を参考に，対象学年だけでなく学校全体の指導計画を見直し，改善している。	2.64
		15 定期テストや全国学力状況調査等の分析結果を参考に，対象学年だけでなく学校全体の具体的な指導法を見直し，改善している。	2.50
16 あなたは，学校の授業研究の成果を日常の授業に積極的に生かしている。		2.86	
エ 組織文化（カリキュラム文化・組織文化・個人的価値観）	21 あなたは，学校として力を入れている実践（特色）を具体的に説明できる。	3.07	
	22 あなたは，自己の知識や技能，実践内容を相互に提供しあう姿勢がある。	2.93	
	23 あなたは，学級や学年を越えて，生徒の成長を伝えあい，喜びを共有している。	3.07	
	24 あなたは，自分の担当学年・教科だけでなく，学校の教育課程全体で，組織的に生徒を育てていくという意識がある。	2.57	
オ リーダーシップ	25 校長は，教育と経営の全体を見通し，ビジョンを示している。	3.07	
	26 教頭は，ビジョンの具体化を図るために，学校として協働して取り組む体制や雰囲気づくりに尽力している。	2.93	
	27 主任や中堅教員は，ビジョンをもとにカリキュラムの工夫や研究推進の具体策を示して実行している。	2.71	
	28 あなたは，立場や役割に応じてリーダーシップを発揮している。	2.79	

**14名の職員の点数の平均
(最高は4)**

添付資料 3

カリキュラム・マネジメント分析シート

【 ○:プラス要因 ▲:マイナス要因 数字:項目の総得点の平均】

「関連性(つながり)」はあるか	生徒や地域の実態(長所や課題)把握の様子	
	【プラス要因】	【マイナス要因】
外部環境	Opportunity (機会) ○保護者は教育に熱心で学校の活動に協力的である。家庭での教育もしっかりとしている。 ○地域の方々は学校をよくしようと積極的な活動し、授業や行事をサポートしてくれる。 ○歴史・文化・産業など学習活動に適した教材が地域にはあふれており、利用が可能である。	Threat (脅威) ▲保護者間で誤った情報が広まったり、親同士の関係が生徒に影響したりする。教師と親の距離が近すぎる。 ▲地域からの要望が大きすぎたり、学校への思いが強すぎたりして、学校では対応できないことが多い。 ▲郷土の素材を教材研究をしたり、出向いて学習したりする時間が足りない。
内部環境	Strength (強み) ○素直で協力的な生徒が多く、少人数のため教師の指示が通りやすく、学習活動を行いやすい。 ○協力が中心で教員が多く、詳細で学習活動を細かく進められる上、生徒理解も確実に行える。 ○学校予算が少ないため、物を大切にしたり、工夫して活用したりできる。	Weakness (弱み) ▲受け身な生徒が多く、自分の意志で本気になって取り組んだり、考えを発言したりする力が弱い。 ▲教員数が少なく、行事のとき人手不足になることが多く、職員の体力的にも厳しい。 ▲予算不足で必要な教材や消耗品の購入ができないため、生徒の学習活動を制限されることがある。

ア. 教育目標	
4	感動・創造・貢献の喜びを生徒に！
3	自校の児童・生徒につけさせたい資質・能力
2	何事にも本気に取り組み、創造できる力
	設定・共有化の様子
1	○生徒の実態の把握が十分できている教員が多い。 ▲学校目標の捉えが不十分な教員が多く、具体的にどんなことをしたらよいかわからない
	実現化の状況
1	○目指す生徒像おぼつきりとして、とてもわかりやすい。 ▲学校目標から生徒に具体的にどんな力をつけていかなければならないかわかりづらい。

① 反映 ② 成果

イ. カリキュラムのPDCA			
4	P lan (計画の様子)	○各教科の指導計画はしっかりとしている。 ○見直しをもって授業計画を行っている者もいる。 ○郷土学習プランが確立している。	▲評価に対して共通認識がなく、各教員に任せられている現状が在り。 ▲学校目標が、学級経営や学習指導に連携しているとはいえない。 ▲年間指導計画が細かすぎて、全体計画を把握しづらい。 ▲計画通りに指導内容が進められないことがある。
4	D o (実施の様子)	○教科によっては系統性や生徒の理解を考えて授業内容を組み替えて実践している単元もある。 ○学年目標を意識して宿泊行事の計画がなされている。	▲日々の活動に追われ、学校目標を意識した授業や行事の実践ができていない。 ▲教科の関連を検討する場を設ける必要があるが、時間に余裕がない。 ▲系統性の考え方が甘い(自分の教科のみ考えると…)
4	C heck (評価の様子)	○授業では様々な観点や方法を用いて評価をしている。 ○選案簿を利用して、授業の反省、振り返りを行っている。 ○授業の振り返りから授業の評価を行っている。	▲研究授業では授業の評価のみ行うが、そこから展開はない。(全教員の指導力向上にはつながっているように思えない) ▲様々な行事、授業について反省、振り返り、次の活動に生かすなど、この過程を着実にこなす余裕がない。 ▲自らの授業の評価は時間に追われ、具体的にできていない。
4	A ction (維持・改善の様子)	○授業の進度は、昨年の反省を生かして、効率的に学習できるように単元を進めるはやすさを調節して指導している。 ○自らの研究授業での取り組み、指導を次に繋げられるように考えている。	▲授業の振り返りや行事の反省など、個々の分析で止まっており、全体に広め、生かすまでに至っていない。 ▲研究授業を作り上げるための時間、授業後に反省を次に生かそうと話し合う時間、高め合う時間が作れない。

③ リーダーシップ ⑤ 相互関係

オ. リーダーシップ (校長、副校長・教頭、主任など)		
4	○指示が分かりやすく、仕事をしやすい環境がある。 ○穏やかで相談しやすい雰囲気がある。	▲忙しいの一言で改革を諦めてしまうことは多い。 ▲リーダーシップと言われると、厳しい感じがする。 ▲教育課程を研究したり、具体策を考えたりする傾向がない。 ▲活動が担当者任せになっており、役割分担がされていない。

③ リーダーシップ ⑤ 相互関係

ウ. 組織構造 (工夫や課題)	エ. 組織文化	
4	[人] ○OSC、AITなどとよく話ができて、相談しやすい雰囲気がある。 ○地域の方と気軽に話すことができ、教育活動について援助をお願いできる。 ▲職員数が少なく、常に人手不足の状態で行事を行っている。	4 [学校文化] ○地域のつながりを意識して、行事に力を入れている。 ▲カリキュラムをかえていこうという考えがない。
3	[物] ○広大な校区、自然や豊かな森、歴史ある史跡、工場団地など教材とできる物が多。 ▲時間確保の配慮があったとしても、それ以上に多忙であり、焼け石に水である。	3 [生徒文化] ○素直で協力的な生徒が多く、指示が通りやすい。
2	[組織の運営] ▲現教などで個人研究を進める時間を確保してほしい。 ▲全教職員で教育課程について話す機会が設定されていない。	2 [組織文化] ○職員室で生徒の話題が多く上がる。 ▲全職員を通して、互いに刺激し合い成長する、生徒を成長させるといった感覚がない。
1		1 ▲組織的にと言われると厳しい。 ▲知識・技能を共有する時間がない。 ▲姿勢・意識はあるものの実際に行動にうつせていない感じがある。

④ 相互関係 ⑥ 影響

⑧ リーダーシップ ⑩ リーダーシップ

カ. 家庭・地域社会等 (他校・企業なども含む)	キ. 教育行政 (文部科学省、教育委員会、総合教育センターなど)		
4	○地域・家庭が生徒に近いため、連携が容易である。 ○教育に熱心な家庭が多く、協力体制が◎。	4	○学校訪問、指導員訪問では指導主事の指導を受け、授業力向上につなげている。
3	○地域学習を積極的に行うことができる。 ▲行事や保健指導など、学校主導で地域、家庭と共に考える機会が設定されていない。	3	▲教育行政機関を授業や研修などに活用したい気持ちはあるが、手続きをする手間を考えてしまう。
2	▲利用したい施設が学校の近くにない	2	▲多忙により研修は二の次になっていることが多い。
1		1	▲研修の時間を作らだせていない。

⑪ 連携・協働 ⑫ 指導・支援

第3学年 組 理科指導案

第 時限 理科室
指導者 ○○○○

1 単元名 仕事とエネルギー

2 単元目標

- (1) 仕事とエネルギー，力学的エネルギーの保存に関する事物・現象に進んで関わり，それらを意欲的に追究すると共に，日常生活との関わりを考えることができる。(学びに向かう力・人間性)
- (2) 仕事の原理やエネルギーの関係を実験から推測し，自らの考えを導いたりまとめたりして，表現することができる。(思考力・判断力・表現力)
- (3) 仕事の大きさやエネルギーを測定する実験を正しく行い，記録したり，グラフに表したりすることを通して，仕事の原理と仕事率，エネルギーの概念，運動エネルギーと位置エネルギーの相互の移り変わり，力学的エネルギーの保存などについて理解することができる。(知識・技能)

3 単元について

本学級の生徒は，理科の観察・実験に意欲的に取り組むことができる。前単元の「物体の運動」の学習では，グループで協力して物体の速さの実験に取り組んだり，慣性のはたらき方について課題を話し合ったりしながら，理解を深めることができた。その反面，既習事項を根拠に予想することや観察・実験の結果をもとに考察するなど，科学的に思考することが苦手な生徒が多い。身近な現象について意欲的に考え，仲間との意見交換を通して，自分の生活につなげていける本単元は，学校重点目標「本気・話し合い・創造」の力を伸張が期待できる。課題について自分事のように捉え，本気になって追究していけるように授業展開をしていきたい。また，観察・実験の結果から何が明らかになるのか，どんなことが説明できるのかを深く考えることで，科学的な思考力の伸長を目指したい。

本単元は，生徒にも馴染みのある言葉である「仕事」「エネルギー」を学習する。2年時，技術科の「エネルギー変換」の単元では，様々なエネルギーがあることや，扱いやすい電気エネルギーの性質，安全な利用方法など，エネルギーと生活との関わりについて学習している。理科では，このエネルギーの学習をさらなるになって深めていく。最初にエネルギーを学ぶ上で基礎となる「仕事」の概念を力学的に定義付けていく。そのために，生活体験と関連させながら，身近な現象を扱った実験・観察を行うことを通して，力学的な仕事概念を確立していく。さらに，仕事を定量的にとらえるために，仕事の大きさや仕事量の求め方などを学び，知識の定着を図る。また，ボウリング球とピンの倒れ方，自動車の速さと制動距離の関係等，生徒が体験したことのある身近な課題から，仕事と抽象的な概念であるエネルギーの関係を考え，様々な場面で仕事とエネルギーが関係し合っていることに気づかせる。エネルギーを多面的に捉え，人間のくらしとの密接な関わりを知ることは，エネルギー大消費国の日本で生活する生徒にとって大切なことである。この学習を生かし，3

添付資料 4-2

学期の理科「自然と人間と科学技術」の単元へつなげ、自然環境に寄与する態度を育てていく。近年の東日本大震災による原発問題を代表とする風評被害にまどわされないような科学的、総合的なものの見方や考え方を身に付け、これからのエネルギー利用について考えを広げていく。

仕事とエネルギーの関係の規則性や法則を見出していく過程において、一人の生徒の気づきを全体に広めるために話し合い活動を重視し、授業の中に位置づけていく。科学的な根拠をもとにして、考えを練り上げていくことで、論理的な思考の深まりを期待する。以上のように、身近な現象を教材とし、興味・関心を高められる課題の提示と話し合い活動を軸にして、科学的な見方、考え方を養っていきたい。また、仕事やエネルギーの観察・実験を行うことを通して、生徒の普通の生活の中にある科学的な事象、現象について興味をもって目を向けてくれることを期待する。

4 抽出生徒

生徒A… 班の中心として実験に取り組み、結果を自分なりに考察することができる。積極的に発言はできるが、説明が仲間に伝わらないこともある。既習のエネルギーの移り変わりの学習から、球の位置エネルギーが物体の速さである運動エネルギーに変換したと考え、球のスピードが最高になる点を捉え、仲間にわかりやすく説明する姿を期待する。

生徒B… 実験には意欲的に取り組むことができる。実験結果の予想はするが、根拠がなく、理由まで述べられないことがある。クラスの仲間の考えに耳を傾け、球の運動エネルギーが最大になる地点について気づいてほしい。そして、その知識を活用して課題を解決できるように努力することを期待する。

5 身に付けたい力

(1) カリマネ観点からの重点目標

本気	話し合い	創造
・実験・観察に対して目的意識をもって取り組み、意欲的に探究することができる。	・実験・観察の方法、結果の予想、考察などをグループで話し合い、仲間の意見に耳を傾け、自分の考えや見方を広げ、考えを再構築することができる。	・実験・観察の結果を考察し、規則性を見出したり、課題を解決したりし、その知識を身近な現象と関連付けて考えることができる。

(2) 単元評価表 (○教科目標に対する評価, ●カリマネ観点からの重点目標に対する評価)

	学びに向かう力 人間性	知識 技能	思考力 表現力 判断力	本気	話し合い	創造
1. 仕事とは何か		○	○	●	●	
2. エネルギー	○	○	○	●		●
3. 力学的エネルギーの保存		○				●
4. エネルギーとその移り変わ	○		○	●	●	●
5. エネルギーの保存と利用の効率		○	○		●	●
6. 熱エネルギーの効率的な利用		○				●

6 単元構想 (全15時間)

仕事って何だろう？①

- ・職業？ ・働くことだよ。 ・何かを動かすものかな？
- ・仕事って道具を使う方がやりやすいよね。

手で行う仕事，定滑車を使った仕事，動滑車を使った仕事，楽なのは？②

- ・手で物を持ち上げるのは重い！ ・定滑車は力を入れる方向が変わる。
- ・動滑車と定滑車の違いはあるのかな？ ・道具を使った方が楽だよ。

綸軸やてこの仕事について考えよう①

もし引越し屋の社長だったら，1分で5Nの力で3m動かす人と5分で4Nの力で25m動かす人どちらを雇う？②

- ・どちらの人が仕事の効率がよいの。 ・計算してみると5分の方が仕事の量が大きい。
- ・仕事を時間で割ると，仕事の効率が分かる。 ・仕事の源はパワー？エネルギー？

数2年「割合」

エネルギーって何だろう？①

- ・力？ ・動くためのパワーかな？ ・エネルギーがあると物を動かせるね。

技2年「電気エネルギー」

エネルギーとは？

物体が，仕事ができる状態にある時，その物体はエネルギーを持つという！

運動エネルギー②

位置エネルギー②

- ・物体が速いとぶつかるパワーは大きい。
- ・自動車で速度が2倍になると4倍の衝撃。

- ・高いところから落ちた方が衝撃は大きい。
- ・ダムは水を落とし，タービンを動かしている。

高い場所から落ちると，物体の速度が速くなる
位置エネルギーと運動エネルギーに関係はあるのか？本時(2/2)

数3年「関数」

振り子の球の速さは変わってる？ どちらのジェットコースターがゴールするのが速いのか？

- ・落ちる物体の速度が速くなるということは，位置エネルギーから運動エネルギーに変わる。
- ・位置が高いほど，スピードが速くなるから，2つのエネルギーには関係があるね。
- ・振り子，ジェットコースターでは，位置エネルギーから運動エネルギーへ変わっていく。

力学的エネルギーの保存

運動エネルギー+位置エネルギー=力学的エネルギー

技2年「生活とエネルギー」

いろいろなエネルギーの移り変わりを考えよう②

- ・電気エネルギーや熱エネルギーなど，いろいろなエネルギーがあるね。
- ・エネルギーはいろいろ変わっている。 ・エネルギーを無駄にしない。
- ・効率的なエネルギーの利用は，省エネにつながるんだね。

社2年「エネルギーと産業」

技2年
「いろいろなエネルギー」

7 本時の指導

(1) 目標

- ・球の速さの変化について根拠をもとに考えをまとめることができる。(思考力・表現力・判断力)
- ・ジェットコースターの速さについて意欲的に考え、仲間の考えをよく聴き、課題解決をしようとする。(学びに向かう力・人間性)

(2) 展開

時間	学習活動【 ◆発問 ○生徒の反応 ※教師の支援 評価 ★カリマネ視点 】
5分	<p>◆振り子の動きを確認しよう。 ○振り子は最も低い部分で運動エネルギーが最大になり、スピードが速くなる。 ○運動エネルギーが位置エネルギーに移り変わった。 ◆位置エネルギーと運動エネルギーの移り変わりが見られるジェットコースターについて考えよう。</p> <p>★本気 どちらのコースの方が球が先にゴールするのだろうか。</p>
15分	<p>◆既習事項や生活体験を基にどちらのコースが速く球がゴールするのか考えよう。 ○一気に落ちた方が斜面に沿う力が加わり続けるから a の方が速いはず。だから、速くゴールするのは a。 ○ b は途中で平面になるから、その分球が加速できないと思うから、スピードはでない。 ○ b の最初の斜面は急だから平面の速度が a より速いのでは。だから b の方が速く着くはずだ。</p> <p>★話し合い</p> <p>コース a コース b</p> <p>※実際の振り子の運動を観察させ、前時の学習ポイントを確認する。 ※動画を基に、球のスピードと高さの変化を考えさせる。</p>
10分	<p>○同じでしょう。同じ高さだから。位置エネルギーは同じで運動エネルギーに変わるはずだから。 ○距離は a の方が短いから…。コース a が速い。 ◆同時に球を転がす演示実験を観察し、なぜ同じ時間となるのか考察をしよう。 ○ b の平面の前半は a の同じ場所より運動エネルギーが大きいけれど、後半は a の方が運動エネルギーが大きいから同じくらいの速さになるのでは。</p> <p>★話し合い</p> <p>※課題に対して意欲的に探究し、根拠を基に自分の考えをもつことができたか。(ノートの記述・発言から)</p>
15分	<p>○最初の位置エネルギーが同じなら、ゴールする速さは変わらないんだ。 ○位置エネルギーが同じでも、絶対ゴールする速さは変わるはずだ。 ◆ a と b よりも速くゴールするコースはあるのか。 ○そんなコースできるのか。 ○運動エネルギーが最大になった球の距離が長いコースをつくれればいいはずだが。 ○速いコースもできるんだ。運動エネルギーが最大になる球が長い距離を転がればいいんだ。</p> <p>★話し合い</p> <p>★創造</p> <p>※クラス全体の理解を深められるように、図を用いて説明するように促す。 ※最初の位置エネルギーが同じならゴールするのも同じと考える生徒に揺さぶりをかける発問をする。 ※スタートの高さ、ゴールの場所は同じだという条件から、速くゴールするコースを班ごとに考えさせる。</p>
5分	<p>◆本時の学習を振り返る ○位置エネルギーを早く運動エネルギーに変換すればよりスピードアップすることが分かった。 ○ジェットコースターのコースも作り方によって、速さが変わるんだなあと思った。</p> <p>★創造</p> <p>球の速さの変化について自分なりの根拠をもとに考えをまとめることができたか。(ノートの記述・発言から)</p> <p>※本時で学んだ内容をノートに記入させる。</p>

8 座席表

教 卓

<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①実験についてじっくりと考え、根拠を基に結果を考察することができる。 ②抽出生徒Bにエネルギーの移り方のポイントについて助言をする姿を期待する。</p>	<p>生徒</p> <p>抽出生徒B</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①運動エネルギーと速さ、質量の関係を深く考え、相撲と体重、立ち合いの速さ等について考えを広げた。 ②生活経験と絡めて、本実験の結果を考察し、理解を深めてほしい。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①運動エネルギーと質量、速さの関係について仲間の意見を聴き、じっくり考えた。 ②班での話し合い活動で、自分の考えを仲間に伝えられるように支援したい。</p>
<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①エネルギーの移り変わりの実験に対して結果を予想しながら考えて、実験を行う姿が見られた。 ②仲間の意見をしっかりと聞き、物体の速さの変化について自分の考えを整理させたい。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①実験に意欲的に取り組み、自分なりに結果を考察し、発言することができる。 ②実験結果の予想について自分の考えをクラスに分かりやすく伝える姿を期待したい。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①既習事項をしっかりと理解しており、粘り強く学習に取り組むことができる。 ②コースで運動エネルギーが最高になる地点を捉え、友達に球の速さの違いを説明してほしい。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①友達と協力して自分の理解を深めようと努力する姿が見られる。 ②疑問に感じたことを仲間に確認しながら、位置エネルギーと運動エネルギーの関係を捉えていってほしい。</p>
<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>① ②班での話し合いでは、仲間の意見をしっかりと聞いて、エネルギーについての理解を深めていってほしい。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①意欲的に実験に取り組み、自分の気持ちを発表することができる。 ②仲間の意見から位置エネルギーと運動エネルギーとの関係に気づけるように支援したい。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①友達と協力して実験に取り組んでいる。 ②どうして位置エネルギーが同じなのにゴールする球の時間が違うのか、仲間の意見を基にじっくり考える姿を期待する。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①分からない内容を粘り強く質問し、理解しようと努力することができる。 ②班の仲間の意見を聞き、球の速さと位置エネルギーの大きさとの関係を理解させたい。</p>
<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①仲間と協力して実験に取り組んでいる。 ②仲間の意見を聞き、運動エネルギーと位置エネルギーの移り変わりを考え、球がゴールする時間の違いを理解させたい。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①実験結果の考察をしっかりと行い、疑問点を解決するために努力することができる。 ②運動と位置エネルギーの関係をよく考え、話し合いをリードしてほしい。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①仲間と協力して実験に取り組んでいる。 ②仲間の意見をしっかりと聞いて、エネルギーの移り変わりに着目し、コースによる球の速さの違いに気づいてほしい。</p>	<p>生徒</p> <p>抽出生徒A</p>
<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①自分の考えをしっかりともち、進んで発言することができる。 ②仲間とは少し違った視点で現象を捉えることができるため、ひらめきを進んで発言してほしい。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>① ②仲間の説明をしっかりと聞き、エネルギーの移り方について理解を深めてほしい。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①実験に意欲的に取り組み、友達の意見を聞き、自分の理解を深めている。 ③位置エネルギーが同じ2つのコースについて、なぜ球の速さが変わるのか、その理由を理解させたい。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①自分の考えをしっかりともち、積極的に発言することができる。 ②球の速さの変化が下ってきた斜面の角度に影響することに気づき、仲間に説明する姿を期待する。</p>
		<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>① ②友達の意見からエネルギーの移り変わりによって、球の速さが変わることを理解させたい。</p>	<p style="text-align: center;">生徒</p> <p>①実験には取り組むが、何を調べているのか理解できていないことがある。 ②友達の意見をよく聞いて、球の速さが何に影響しているのか理解できるように支援していきたい。</p>

①今までの学習について

②本時で期待する姿

カリキュラム・マネジメント実践報告（生徒会活動）

生徒会活動担当

1. 本気

教員主導ではなく、生徒会執行部が中心となって企画を考え、話し合い、実行できるように努めた。生徒たちが実践したいことを考えることで、どの企画に対しても「本気」になって取り組むことができた。例えば、壮行会では、夏の総合体育大会で学校全体が盛り上がるにはどうすればよいかを考え、全校生徒を応援するキャラクターを作り、劇にして演じた。練習不足は感じたが、生徒会執行部のメンバーは生き生きと役を演じていた。スポーツ集会では、運動が苦手な生徒も楽しめること、簡単なルールでできること、他学年との交流が深まることを必須項目にして企画を考えた。当日は笑顔があふれる時間となり、この日の日記には楽しい時間を過ごせたと書いている生徒がたくさんいた。



2. 話し合い

生徒議会では、生徒議長が司会を行い、各学年の級長の4人で話し合う時間を設定し、その後全体で共有した。各クラスの級長からアイデアをもらい、そのアイデアを基に生徒会執行部で話し合いを進めていった。生徒会スローガンを決める話し合いでは、学校目標の「感動」「創造」「貢献」をもとに意見を出し合った。話し合いの中では、「自ら動かないと感動は生まれない」「自分たちの力で新しい時代を創りたい」「感動・創造・貢献の輪が未来にもずっと続いていくといい」というような意見が出た。最終的には「大夢真新」に決まったが、学校目標を達成するための視点で様々な意見が出され、有意義な話し合いとなった。体育大会の生徒会種目を決める話し合いでは、前年度の反省点を確認した後に、待ち時間が短く、来場者も応援できたり楽しんだりできる種目を考えた。今年度は体育大会の形式がA・B組対抗戦に変更したため、学年を越えて協力して勝利を目指せるように期待を込めて、「しっぽとり」を採用した。種目を盛り上げるために、しっぽをとられても復活できるようにする、BGMを流す、種目を開始する前に寸劇を入れるなどのアイデアも次々と出てきた。

3. 創造

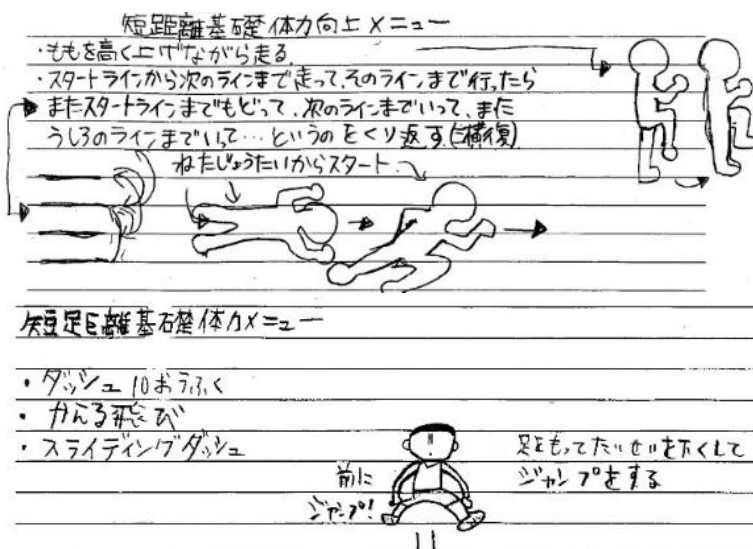
今年度の生徒会での挑戦の一つである全校作品の鶴文字は、まさに全校生徒やその保護者、地域の人も巻き込んで創造するものである。文化祭では、生徒会執行部だけが活躍して達成感を感じるのではなく、生徒一人一人が自分の創ったものが形になって感動する、達成感を感じる経験をしてほしいと願っている。折り紙で鶴を折ったことがない生徒も多くいたが、3年生が中心となって1、2年生に折り方を教え、全校で作品作りにとりかかっている。

カリキュラム・マネジメント実践報告（保健体育）

3年保健体育担当

1. 本気・創造

リレーを取り上げた本授業では、生徒を本気にさせる導入を意識し、まず陸上男子4×100mリレー日本代表の実際のレースの映像を見せた。そこには、ダッシュをしながらさらに前を向いた状態でバトンの受け渡しをする様子があり、生徒は驚きの表情を見せた。さらに、ゴールタイムを見ると38秒台で、一人一人の100mタイムの合計よりも速いことに気がついた。生徒からは「すげー」「こんな風にバトンパスをしてみたい」等の声が上がった。「じゃあ、こんな風にバトンパスするにはどうしたらいいかな」と問いかけると、「やっぱりたくさん練習するしかない」「スタートダッシュの練習が必要」「でも、どんな練習がよいのかわからない」等の声があった。多くの練習が必要であることはわかっているものの、具体的にどのような練習方法があるのか理解していない生徒がほとんどであった。教師側が、「こんな練習方法があるからやってみよう」というのではなく、わからないなりに、生徒たちに考えさせた。そこで、「ダッシュのスピードを速くするために」「スムーズなバトンパスをするために」等の課題を与え、どんな練習方法がよいのかをレポートにまとめさせた。右図のようにイラストをつけて説明する生徒もあり、創造力をはたらかせながら書き表した。



【生徒が考案した練習メニュー】

2. 話し合い

リレーで重要になるのがバトンパスである。いかに速いスピードで確実にバトンの受け渡しができるかがポイントである。スムーズなバトンパス実現のために「ダッシュマーク」を使用した。リレーの場面では、当たり前に使われているものだが、生徒たちにとっては新鮮なものだったようだ。ダッシュマークとは、前走者がどこにきたら次走者がダッシュをし始めるのかを判断するための目印である。はじめのうちは戸惑いも見られたが、練習を進めていくうちに、ダッシュマークの重要性に気づいた。しばらくすると、話し合いの時間をとらなくても、グループ内で「バトンが渡せないから、ダッシュマークはもう少し手前にした方がいいんじゃないかな」「あと足一つ分後ろにしてみるから、もう一回やろう」等、自然に話し合いを行っている様子が見られた。単元の最後の記録会では、全グループがスピードに乗ったバトンパスをすることができた。

生徒カリキュラム・マネジメントアンケート

○学校での学習や生活についての以下の問いに、「①当てはまる」「②どちらかといえば、当てはまる」「③どちらかといえば当てはまらない」「④当てはまらない」で答えなさい。

- ① 校長先生が、みんなにどんな力をつけてほしいと思っているのか理解していますか。
- ② ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。
- ③ 難しいことでも、失敗を恐れず挑戦していますか。
- ④ 本気になって授業や行事に取り組んでいますか。
- ⑤ 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。
- ⑥ 生徒の間で話し合う活動を通じて、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。
- ⑦ 生徒の間で話し合う活動を通じて、友達のを考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか。
- ⑧ 話し合い活動で、自分とは異なる意見や少人数の考えの良さを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか。
- ⑨ 授業で自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。
- ⑩ 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。
- ⑪ 授業で意見を発表する時、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。
- ⑫ 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分のこととして振り返ることができると思いますか。
- ⑬ 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えに自信をもつことができますか。
- ⑭ 自分の考えを書く時、考えの理由がわかるように気を付けて書いていますか。
- ⑮ 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。
- ⑯ 読書は好きですか。
- ⑰ 昼休みや放課後、家庭で1週間に1冊以上本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読みますか。
- ⑱ 自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
- ⑲ 授業で学んだことを、他の授業や学習、普段の生活に生かしていますか。
- ⑳ 授業で学んだことで、自分の考え方を変えたり、広げたりすることができましたか。